

# 20年あゆみ

社会福祉法人 酒田市社会福祉協議会



二つ年のあゆみ

社会福祉法人・酒田市社会福祉協議会

1990



*heart and heart*

発行  
社会福祉法人・酒田市社会福祉協議会

# 20年あゆみ

社会福祉法人 酒田市社会福祉協議会

1990



■カット／酒田の木（タブの木）



社協シンボルマーク

## もくじ

会長あいさつ	山岸 貞一	3
祝 辞	相馬 大作	4
	佐藤 宮太	5
	松本照太郎	6
カラー・グラビア		
社協「さかた」館めぐり		7
第1部／社協ことはじめ		11
第2部／社協基盤づくり		23
第3部／ボラントピア事業をとおして		37
第4部／草の根福祉への展望		51
特 集／歴代事務局長にきく		67
年 表 昭和45年から平成2年まで		74
役職員名簿		78
あとがき		80

**表紙写真**／平成元年10月1日、中町商店街での「赤い羽根」募金。

同じ街頭啓発に出ていた「白ばら会」明るい選挙推進  
協議会の青年たちが自発的に応援してくれました。

**とびら写真**／同じく「赤い羽根」募金。こちらはカナダから来酒した  
交換学生（高校）のボランティアです。

■ レイアウトならびにイラスト／駒場 紀夫（東大町3丁目自治会長）



## ごあいさつ

社会福祉法人  
酒田市社会福祉協議会

会長 岸貞一

記念すべき年であるということです。先見的な試行を果敢にすすめてくださった先輩に恵まれ、今日の姿があるということを私たちは脳裏に刻んでおかなければなりません。このたび記念誌編集のため倉庫から取り出した簿冊の中に、社協法人化転用関係綴があつて目を通したとき、産みの苦しみが紙背に感じられ、深い感銘を覚えたことでした。

次には、法人化二十周年をお祝いするかのように、市からボランティアセンターの贈り物があつたことです。正式には老人福祉センター付設作業所機能拡張工事の名で七月着工、十一月末みごとに竣工した建物であります。待望久しがつたボランティアの集まる拠点を提供していただき、感激ひとしおであります。この建物の活用は地域福祉に力強くはずみをつけ、社協活動を大きく推進してくれるものと信じて疑いません。

ことし平成二年は、西暦一九九〇年です。二十一世紀に到来する超高齢社会に備えて、国も老人福祉法、社会福祉事業法など一連の関係法律を改正し、特に高齢者保健福祉推進十カ年戦略を策定しました。すなわち、在宅福祉を中心とする施策が重視的に打ち出されるとともに、市町村社会福祉協議会に地域福祉の中核としての重要な機能を果たすよう、その役割が見直されることになったのであります。

世紀末の十年間の最初の年は、こうした時流の渦の中にあるわけですが、私たち酒田市社会福祉協議会にとっていろいろな意味で転生の契機ともなるだいじな年となりました。

その一つは、酒田市社会福祉協議会が法人格を得て、昭和四十五年七月十五日社会福祉法人として設立、二十周年にあたる

行政初め市民のみなさん、各福祉団体におかれましては、なにとぞ草の根福祉指向につきまして、いつそつご指導とご協力を賜わりたくお願ひ申しあげ、ごあいさつといたします。



社会福祉法人社会福祉協議会の  
20周年記念に寄せて

酒田市長  
相馬 大作

きたところです。  
また、小学校区単位に「福祉のまち推進協議会」または「地区社協」を組織していただき、酒田市の独自事業として住民参加の福祉のまちづくりを実践していただいているところであります。

「人づくり」「環境づくり」「ルールづくり」の三つの柱は、市政の基本理念としてきたわけですが、これからも福祉施策を展開するにあたり重視していきたいとおもいます。

特に（プラン80）では、本市の特性にあつた「酒田方式の福祉サービス」を検討いただいたわけですが、ひとり暮らしのお年寄りの「安心ベンダント」緊急通報システムは、市民のみなさんのご協力により、七月に県内で初めてスタートしました。ひとりも漏らさず、福祉の手「草の根ネットワーク」づくりを「在宅福祉サービスの積極的推進」ということで、社会福祉の拠点として、市民のみなさんの英知により、そのシステムを是非完成してもらいたいとおもいます。

社会福祉協議会を取り巻く情勢は、社会福祉事業法の改正による活動の推進強化等で厳しいものがあるとおもいますが、民間という体制を有効に活用して市民に機能するよう頑張ってもらいたいとおもいます。

最後に、山岸会長さんをはじめ、社協役員のみなさん、そして事務局職員のみなさんのご健闘に心から感謝申し上げ、更なる前進をご期待いたします。

昭和四十五年七月十五日に法人として生まれ変わってから二十周年、人間で言えば二十歳を迎えたわけです。本当におめでとうございます。

これからは、いろいろな面で注目されるわけですが、文字通り大人としての活動を期待いたします。

顧みれば、この十年間は毎年のように国の指定を受け、「障害者福祉都市推進事業」「老人のための明るいまちづくり推進事業」「ボランティア事業」、そして「地域老人福祉システム開発育成事業」（プラン80）等に取り組み、福祉の向上に努めて



誰もが健康で生きがいのある  
**福祉のまちづくり**

酒田市議会  
民生常任委員長

佐藤宮太

あります。

昭和六二年にはボランティア連絡協議会が発足、平成元年にはふれあいホームサービスクラブが発足するなど、地域における福祉活動にも大きな役割を果してきたのであります。

いま特に考えなければならないことは、二一世紀の福祉にどう対応していくべきかということがあります。例えば高齢化社会問題を考えてみると、酒田市の人口の一四・八%が六五歳以上の方たちであります。そして一年に〇・五%～〇・六%の割合でのびていますから、一〇年後、二〇年後の人口割合は、二〇%から二五%の超高齢化社会になると推計されます。この高齢化社会問題をぬきにして二一世紀の福祉は考えられませんが、単に人口問題だけを考えて満足するものではなく、その他要援護者の問題、あるいは国の制度の問題もあります。

いま社会情勢、生活環境の変化によって求められる福祉、多様なニーズに適切に対応できるよう、酒田市としての施策を立て、市民各層の積極的な参加による支援体制の確立が先決ではないでしょうか。

私たちは議会をあげて「誰もが健康で生きがいのある福祉のまちづくり」について努力してまいりたいと思います。

社会福祉協議会が法人として発足して以来二〇年、その果してきた役割は大変大きなものがあります。

昭和四五年に発足してから福祉向上のための取り組みとして、二年後には老人福祉センターが開設され、寝たきり老人のおむつ代の支給、さらに二年後には母子福祉センターが開設され、老人福祉相談員の派遣、介護者激励会の支給、福祉電話の開設、愛の一声運動の展開など大きな成果を上げてきたので

ビスの供給システムを、どのように具体化していくかが、緊急かつ重要な課題となっている。



## 「自助・互助・公助」 の再構築を

酒田市福祉事務所長  
松本 照太郎

人生八十年時代を迎え、また、近い将来間違なく訪れるであろう超高齢化社会を前にして、全国のどの地域でも、その地域の特性に合った地域福祉計画づくりがすすめられている。とくに、ノーマライゼーション理念の浸透と高齢化の進展によって、福祉の普遍化と多様化がすすみ、社会福祉は、一部の人だけではなく、福祉に欠ける、すべての人達に必要になつてきている。とりわけ、在宅要援護老人に対する福祉サー

害者福祉都市推進事業をはじめ、老人のための明るいまちづくり推進事業、ボランティア事業、プラン80事業、生きがいと健康づくり推進モデル事業に取り組み、福祉のまちづくりの基盤整備をすすめてきたところである。すでに、これまでも、久しく社会福祉の分野において、「自助・互助・公助」の組み合わせによる施策の展開の必要性を指摘されてきたが、まず、公私の役割分担を明確にしながら、その中核を担うのはどこであるかを明らかにしていく必要がある。

したがって、しあわせで思いやりのある福祉のまちをめざした新しい地域福祉のシステムづくりは、市民参加のもとに、地域コミュニティ組織と連携しながらすすめるべきであり、ここに社会福祉協議会の果たす役割の意味を感じるものであり、その真価を問われている時もあると思う。加えて、「自助・互助・公助」の再構築をめざし、福祉新時代にふさわしい発想の転換と福祉の心の広がりを念じて止まないものである。



■母子福祉センター（昭和49年3月完成）



▼技能習得教室閉講式  
(母子福祉センター大会議室)



▲老人給食調理のボランティア  
(老人福祉センター調理室)

# ふれあいセンター 社協さかだ館めぐり

——酒田市社会福祉協議会の施設とその活動——



■老人福祉センター（昭和47年1月完成）

# まつり

## い がる

会場として、平成元年祉大会。式典に引き続  
やボランティア団体に  
にくり広げられました。  
さんの愛が、ここに集



▲カラフルに、むじゃ気に、園児たちのアトラクション「ちびっ子花笠踊り」



▲身障センター「あすなろ作業所」の出品



▲福祉大会のオープニングセレモニー



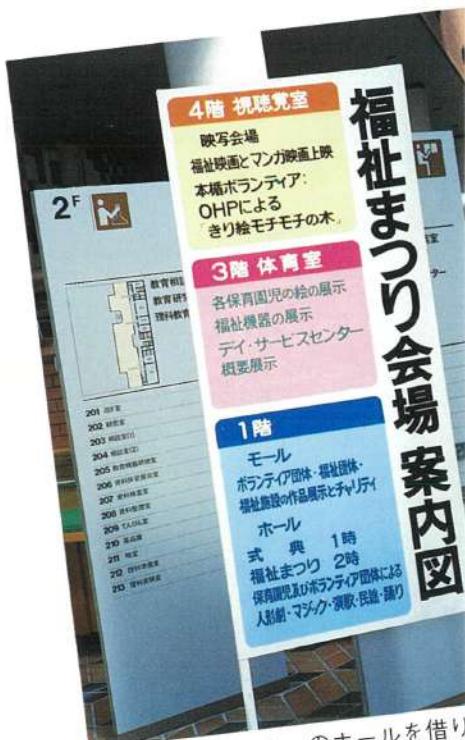
▲モールに並んだ作品のかずかず——福祉施設「光風学園」「鳥海学園」、「吹浦荘」



酒田  
社協 福祉

## 言葉にならない たくさんの愛

酒田市総合文化センターを8月26日に開かれた第8回福  
き福祉まつりが催され、園児による人形劇、歌や踊りが多彩  
言葉にならないほどのたくさんありました。



▲文化センターのホールを借り  
福祉まつり会場

福祉まつりは、たんに関係諸団体によるイベントではありません。市民のみなさんが親子づれで気軽に参加できる、また、そうあらねばならないと願っているフェスティバルです。各階ホールは福祉施設の作品、ボランティア団体や技能習得教室協賛のチャリティ等でぎわいます。展示品のならぶ吹きぬけモールは、こうした市民参加による『ほのぼの福祉』への、何気ない誘導路となっていると言えます。

## デイ・サービスセンター いづみ

泉小四年 馬 場 啓 輔

きれいな和室と食堂

車いすのままのられるバス

ねたまま入られるおふろ

あわのでるおふろ

今まで体が不自由で

こまっていたおじいちゃん、おばあちゃんも  
どんなに気持ちがいいだろう

ここに来るとほっとするだろうなあ

みんなが

もっと使えるといいのになあ

こんなべんりなセンター

できて良かったなあ

(平成2年度福祉協力校 泉小学校)



■ふれあいの園デイ・サービスセンターいづみは平成2年4月完成。



### ▲中段写真

左/泉小1年生の慰問（10月）

中/大ホールで、ボールゲーム。

右/6中生徒1年からのプレゼント  
(9月)。手渡しているのは足達所  
長さん。



### ■老人福祉センター付設作業所

平成2年11月末完成——地域福祉、  
在宅福祉の拠点となるボランティ  
ア・センターとして活用されます。

## 第1部

# 社協ことはじめ

——法人設立のころ——

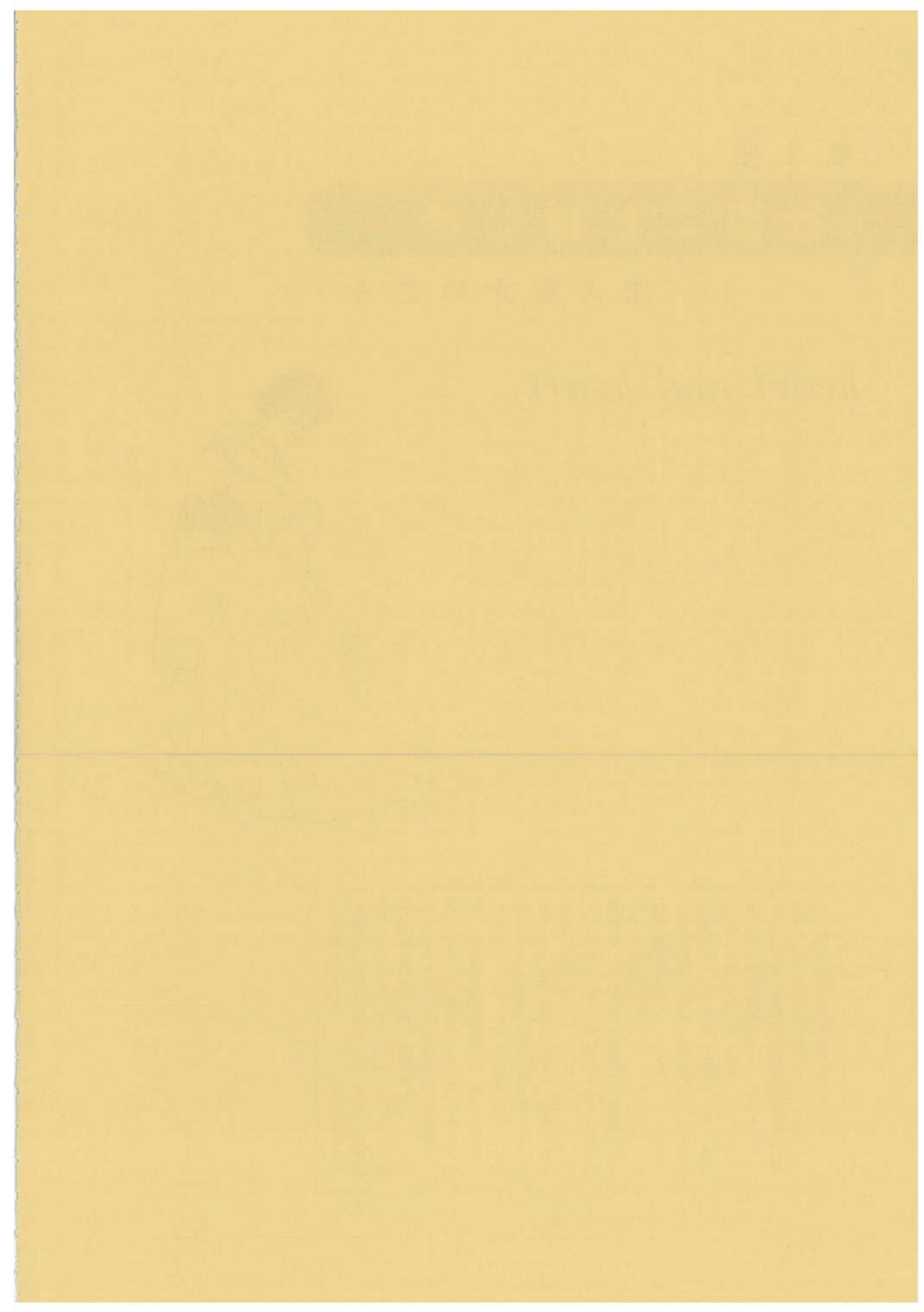
*heart and heart*



形のあるような、ないような酒田市社会福祉協議会の胚は、実は市役所の新庁舎が建つたころすでに宿っていて、一階の福祉事務所の中がありました。

うぶ声をあげるまでお産には陣痛はつきものです。執筆して下さったみなさんとの、文章の行間を読みとつていただきたいと思います。おぼろに聞いていたようなことも、当事者から現実を語っていただくと「なるほど」と深くうなずかれると思います。

それにしても、今日あるような福祉の現状を、するどい大局觀から見通すことのできる先覚者を、そしてすばらしい人材を酒田市はもっていました。「将来市社協の充実を図り、眞に民間の社会福祉団体とすべく、その手始めとして社協の法人化も考えられますので……」と、設立準備の理事会案内の中にありました。こうして、昭和四十五年七月十五日社会福祉法人の法人格取得、決して怠つてはいけない歴史が始まりました。



## 市社協創設期の思い出



五十嵐 利治

昭和四十四年五月、福祉事務所長に任命されたとき、市会議員の是谷菊治さんは、大きな宿題を私に与えてくれました。

それは、市社協の組織の整備と、財政基盤の確立という課題です。当時、是谷さんは、酒田市代表の県社協の役員でした。

その県社協の財政基盤が弱く活動が停滞している現状を力説され、その経験から酒田市社協の発展のための方策を説いてやまなかつたのです。

また、小山市長の指示は酒田市の福祉行政の現状と課題を研究し具体策を実践せよということです。それから活動が始まりました。多くの市民の御意見を頂き、職員の協力のもとにまとめた事業が市社協を「法人化」し、「老人福祉センター」を建設することでした。

県内第一号の老人福祉センターの建設です。当時、金沢市のセンターを視察しましたが、全国的にも施設の数が少なく、補助事業としても順位が低く、県の指導も慎重でした。二十年後の現在では県内市町村どこへ行つても老人福祉センターが建設されています。老人ホーム建設にとどまらず老人福祉センター

建設へと前進させた酒田市の政策は評価されてよいのではないでしようか。しかし、社協の法人化と老人福祉センター建設は本当に難産でした。用地の確保と補助金の獲得等々担当職員は連日残業続きでした。特に地方公共団体と社会福祉法人との関係についてどの様な任務分担をし、どの様な協力関係が望ましいか大きな課題を残したと思っています。

最後に故是谷菊治氏、故小野太工門氏（県共同募金会会長）より特別な御指導と御協力を頂いたことを記しておきたいと思います。

（元酒田市福祉事務所長）

## 福祉の施設に想う



市川 勝

共同作業所あと地に老人福祉センターが建設され、当時東北では例をみない福祉施設であつた。

利用者は開館前から玄関先に集まつて湯のわくのを待つという盛況だった。集会室の立派なソファーラに身体を沈め、ゆったりとした湯上り気分で友人達とおしゃべりしている姿はとても楽しそうに見えた。この洋風の集会室に、隣りの売店で煮る玉蒟蒻の匂いが漂うなんて実際にローカル的な感じだった。年金制度のお陰で多少のお小遣いがあるとみえ、湯上がりに一杯とい

うお年寄りも多かつた。今迄家に籠りがちだったお年寄りが、この施設を利用することで話題も豊富になり、家庭團欒の一助になつたことと思われる。

次に正徳寺の敷地の一部を買受け母子福祉センターが建設された。この施設は、多岐にわたる講習会・相談室など催して、立派な殿堂を市民各位が上手に活用する事により市民生活の根幹となることを希望する。この地域一帯は、市の総合福祉施設地帯ともなつた感があり、今後とも整備に努めてもらいたい。

酒田市社会福祉協議会もはや二十周年を迎えた事は同慶の至りであり、更に発展を願うものです。（元市社協事務局長・初代）

れいになつた市役所の内に福祉事務所があり、社会係・福祉係・庶務係・保護係の四つの係があり、私は社会係に所属し、主に「たすけあい金庫」の貸付係をやっておりました。それまでの私は、生活保護とか民生委員という言葉も知らず、まして恥ずかしいことに、自分の町内の民生委員の名前さえ知らないという福祉オーナーでした。

また、社会係には私の外に五人の職員がいて、係長が会計を担当し、他に共同募金と心配ごと相談があり、その頃の相談所は中央公民館（現本間家本邸）で毎週金曜日に開設し、相談員三名の他に裁判所・法務局からも出張して戴き、協力員としてお願ひしていたことを思い出します。

他に世帯更生資金係一名がおり、毎月二件から四件の貸付があり、その貸付調査委員会の為の調査に苦労しておつたことを懐しく思います。それから軍人恩給係一名、引揚者関係一名が配属されてその人達と一緒にになって働いてきた事も今では昔話となりました。

（市社協事務職員）

## 社協と二十五年



加藤 京子

## 老人センター開設当時の思い出

社会福祉協議会が法人化になつて今年で二十年になるそうです。私自身はその以前から社会福祉協議会にお世話をなつており、昭和四十年八月十五日からですので二十五年になりました。年月の長さだけが尊しとは思いませんが、この福祉を主体とした考え方

が、自分にとっても社会的にもいろいろな認識をもつて変遷されたことには深い感慨があります。

私が入つた当時の福祉協議会は、ちょうど新しく建設されてき



横 勝子

新しく建設された老人福祉センターに、昭和四十七年一月から

勤務することになった私は、老人福祉センターは勿論、社会福祉協議会が何をするところかも知らず御用始めから勤務いたしました。社協は当時福祉事務所に事務局がありましたが、センター完成に伴いセンター内の事務室に移転し、初代事務局長市川勝氏がセンター所長を兼務しておりました。同僚は、故人となられた国鉄出身の佐藤佐太郎さん、管理人と兼務の鹿野三知さんの二人で総勢四人でスタートしました。

老人福祉センターは県内初ということで大変反響を呼び、近隣市町村からも注目されておりました。一月中は一般市民に開放され二月一日から正式にオープンし、60歳以上の老人が多数訪れましたが、なにしろ利用する方も受け入れ側も初めてのことと戸惑うことばかりでした。地域福祉活動推進の中核として建設された建物ですが、当初は老人の憩いの場としての利用が多く、特に朝から入られるお風呂と、センター内に設けられている身障協会運営の売店が大好評でした。中には羽目をはずす人もあり、湯当たりして倒れたり、飲みすぎて事務所に暴れ込んだり、下着を忘れていたり、履き物が間違われたりと毎日対応にてんてこ舞でした。

それまで老人達の集まるる場や、ゆっくり寛げる場は町内の自治会館位しかなかった時代ですから、センターが出来たことにより老人の社会進出の一助になつたとし、孤独老人の減少になつたと信じております。加速的に到来する老人社会にこれからもセンターの役割が益々重要になつてくることと想います。

(市社協事務職員)

## 二つの施設の建設にたずさわつて



佐 本 恆 伸

老人福祉センターと母子福祉センターの建設当時は、資金繰りが唯ひとつ法人化によって認められ、確かに主な財源は、老人福祉センターは日本小型自動車振興会より昭和四十六年度に、母子福祉センターは財団法人日本船舶振興会より昭和四十八年度に、それぞれ融資を受けて建設された記憶がございます。

当時は老人福祉センターは東北で三番目、県内では初めてであり、関東方面等に先進地視察し、高齢者が自由に活用できる憩いの場として多くの方々が利用できるよう配慮したものです。母子福祉センターについては主として関西方面に先進地視察をし、あらゆる関係団体より活用いただき、福祉の向上をはかっていきたいと願つたものです。両施設の竣工後は県内は勿論のこと、県外からも多く多くの団体等が研修視察に参られて対応いたした記憶があります。

二十年経過した今日まで、初期の目的がかない常時多くの方々が活用されており、当時の担当者として心から嬉しく存じております。今後とも多くの方々の憩いの場として、また集団の場として大いに活用され、益々発展されることをせつに念願いたす次第であります。

(元市福祉事務所庶務係長・所長補佐)

## 心配ごと相談に従事してきて



青木 審子

多く、専門的な知識を  
求められる事もあります。  
これらの要求に対  
応するために、既成概  
念にとらわれない研  
修・研鑽を積んで参り  
たいと思つております。

(市社協心配ごと相談員)

社会福祉協議会心配ごと相談事業に係わって久しくなりましたが、相談に持ちこまれる問題はさまざまです。より良い対応を行う為に、社協と相談員と相互の協力が大切です。また来談者に守秘義務を伝え安心して話してもらっています。来談者は悩んだ末に不安を抱いて見えられるので、緊張を解くことに努め、お話を充分聞いてあげています。その上で来談者の立場になり問題解決の為に一緒に考え、方向づけに努力しています。先日、姑と嫁の仲がうまくいかず困った、と来談された方がおりました。相談の内容から感じました事は、それぞれが育つた家庭の習慣を双方共に当たり前と思っていて、その当たり前のくい違いがもつれる事でないかと思いました。当たり前を強要すると折れ合うこともできなくなるので、双方に思いやりの気持があれば人間関係もうまいくいくのではないかと思いました。

こうした悩みを持つ方との出会いを通して自分をみつめ直し、勉強して相談活動に結びつけたいと思つています。

最近の来談者も知識が豊富になりました。相談の内容も人々の価値観の変化や社会経済情勢の変化によって、高度な問題も



◆ある日の相談室風景

### 平成元年度 酒田市心配ごと相談所実施状況

区分	相談種別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	合計
		生年	職業・生業	住宅	家族	結婚	離婚	健康・衛生	医療	精神衛生	人権・法律	財産	事故	児童福祉	母子保健	教育・青少年	心身障害者	(児)福祉	母子福祉	父子福祉	老人福祉	苦情
処理状況	解決	473			3	12	4	11	176	3	4	7	31	1	1	1		1	5	1	9	743
	再来						1						1				1		1		3	7
	民生委員																					
	機関	1			2		1		1	1		2							1		1	10
	その他																					
	取扱数計	473	1		3	14	5	12	176	4	5	7	34	1	1	1	1	1	7	1	13	760

## 最初のころの家庭奉仕員として



山田 喜子

今より二十年前、昭和44年の春のある日の朝、私達三人の新米ヘルパーがコチコチになつて市長室の入口の前に立つていました。当時の小山市長から「福祉の尖兵になつて欲しい」と初めての辞令をもらいました。

希望に胸を膨らませていよいよ活動です。当時、ヘルパー制度が浸透していないため、対象者の名簿を持つて一軒一軒訪問して歩きました。玄関を開けた途端「今日いらね、用事ね」と、ビシャリと障子を閉めます。何日訪問しても中から声だけ聞こえて、障子も開けてくれません。暗中模索をしながら軌道に乗る迄随分長くかかりました。それが一旦気持が通すれば親戚以上との関係になります。何でも話してくれるし、今迄の苦労が喜びに変わります。泣いたり、笑ったり、悩んだりして、人生の何分の一かをあの老人達とふれあつた事が何よりの貴重な体験となり、これから的人生の指針となります。

二十年の歳月を経て、福祉の充実とヘルパー制度の発展は益々重要となり、老人には有難い時代となりました。高齢化社会の進む中で、自分もそれをみつめる齡になり、後輩ヘルパー

上司、先輩、同僚のお力添えで十八年間無事に過ごさせていただき、深く感謝いたしております。ヘルパーとしてお年寄りとのふれあいの中で、多くのことを学ばせていただきました。また、人間関係の難しさも知りました。ヘルパーでしか出来ない経験を勉強させていただきました。

当時の日誌を見ますと、生活保護家庭が多く、掃除機はもちろん洗濯機のない家がほとんどで、清掃事業所からそれらを頂いて運んでもらつたり、蚤がささつていたタオルを役所まで持ってきて払つてみたり、大掃除で顔が真っ黒になり役所に帰れず、銭湯にみんなで飛びこんだ思い出もあります。また、布団乾燥車に乗つて回つたこともあります。その後、入浴サービス制度が発足したり、特老などの施設も増え、この十八年間に福祉制度もずいぶん充実したものと感じております。いつの時代でも人間の心と心のふれあいを大切にし、これからは地域やボランティアの方々と協力し、お役に立ちたいと思います。

の毎日の苦労を想いながら、当時出会つたあの年寄達はみんな元気で暮らしているかな、いやもしかしてと不安もつのります。一日一日が元気で幸せな毎日であります様にと祈る昨今です。

(元市社協家庭奉仕員)



柿崎 千美江

## 技能習得教室を始めて



伴

漣 せん

舟 しゅう

昭和四十九年に県内初めての酒田市母子福祉センターが出来たのと同時に、技能習得事業が開始されました。酒田では、初めてのカルチャー式内容のものでした。

この事業は、「茶道」、「書道」、「花道」、「和裁」、「フラワー」、「日本画」、「着付」の七科目で発足しました。その中の花道の授業を私が担当することになりました。一期生の入学が十月でしたので、翌年三月（半年間）で卒業となりましたが、そのあと改正されて一年を通しての授業となつたわけです。

近年、「手編」と「藤工芸」が追加され、九科目を実施しています。母子センターの入口に、一本の松の木があります。作業室からは、その大樹を通して四季折々の鳥海山が望まれます。今後いつそう市民のみなさんから親まれて、希望者も多く、また明るい環境でゆきとどいた設備のもとで習うもの、教えるもののか心を豊かにしてくれることでしょう。

（市社協技能習得教室 花道講師）



▲技能習得教室の先生方

前列左から加藤華城（書道）、佐藤啓治事務局長、本間セツ子（着付）  
後列、高見香枝（藤工芸）、荒木和子（洋裁）、伴染舟（花道）、渡部鴻子  
(手編)、菅原洋子（茶道）、市原初子（フラワー）、佐藤貞子（和裁）  
の各先生方

## ■ 技能習得教室課目

科 目	講師氏名	開 講 日	定員	開始年月日
書 道	加藤 華城	第2・第4 日曜日 9:30~12:00	30	53. 4. 1
茶 道 (玉川遠州流)	菅原 洋子	第2・第4 土曜日 1:00~4:00	15	54. 4. 1
花 道 (草月流)	伴 染舟	第2・第4 金曜日 10:00~12:00	25	49. 10. 1
フ ラ ワ ー (リボン)	市原 初子	第1・第3 水曜日 1:00~3:00	15	54. 4. 1
和 裁 (大妻式)	佐藤 貞子	第1・第3 日曜日 9:00~12:00	20	52. 4. 1
洋 裁 (文化式)	荒木 和子	第1・第3 木曜日 10:00~3:00	25	54. 4. 1
着 付 (装 道)	本間セツ子	第3・第4 日曜日 1:30~3:30	30	54. 4. 1
手 編 (棒 針)	渡部 鴻子	第2・第3 土曜日 1:00~3:30	35	56. 4. 1
籐 工 芸	高見 香枝	第2・第4 火曜日 10:00~12:00	30	57. 4. 1



▲生花を指導中の伴先生

## ■ 年度別 技能習得教室受講者推移

科目	年度	元	63	62	61	60	59	58	57	56	55
		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
書 道	373	516	507	521	598	504	648	511	598	513	
茶 道	246	307	352	193	240	192	264	272	276	239	
花 道	390	398	488	446	504	456	620	717	620	719	
フ ラ ワ ー	228	243	288	208	236	216	288	269	427	375	
和 裁	253	304	266	233	288	216	264	209	349	191	
洋 裁	487	420	435	400	576	384	408	505	299	409	
着 付	412	453	436	454	592	684	620	614	588	646	
籐 工 芸	478	425	455	741	648	435	487	507			
手編・手芸	567	530	585	678	648	552	696	441	448		
合 計	3,434	3,596	3,812	3,874	4,330	3,639	4,295	4,045	3,605	3,092	

## 仲間同志がボランティア

宍戸 喜美子



### ▼社長さんからの花束

祝賀会（左頁）の席上、宍戸喜美子さんに花束が贈られました。贈り主は喜美子さんが勤務する山形ウェルマート（株）の取締役社長・田中勝彦氏。こうした善行を何も知らなかった、うれしい限りと、山形市から駆けつけて下さいました。



当会は「ボランティア」ということからスタートしたのではなくない。周囲の人達が、その類いの会だという事からこの協議会へ所属されるようになつた。他との交流の意味から多くの人とのふれ合いをし、仲間のみなさんともお友達になれることから、いっしょに参加出来るならこの上ない事と思つてゐる。しかし、若者の多くが「ボランティア」という言葉を嫌つてゐる事を耳にする。元来、アメリカから輸入された言葉なので解釈が難しく、余りにもりつぱな意味が含まれてしまつたからであろうか？

それ程、言葉にとらわれる必要はないはずで、自分達の目的を作り、活動していくべき良い事なのではないだろうか。

そんな中での当会のメンバーは、体の不自由な人、一般人、学生といった人員で現在構成され、本来は体の不自由な人を中心とした仲間作りから二十年経ってしまった。

当初これ程続くとは思わなかつたが、手さぐりの人形劇作りと、体が不自由でも施設へ行き、発表し、皆の心に感動を与えたよろこびが、このような歴史を作り上げたのだろう。



▲「風っこの会」厚生大臣賞受賞

平成2年7月30日夜、社協主催による「風っこの会」厚生大臣賞受賞の祝賀パーティ。市長さん初め、福祉事務所、各ボランティア団体が集まり、盛りあがりは最高（産業会館4F）。



▲カット／「風っこの会」の人形たち

厚生大臣賞受賞をいちばんよろこんだのは、ひょっとしてこの人形たちだったかも知れない。

決して人のためにやろうとか、無償とか、積極的といった言葉は誰も知らない。施設へ行つても逆に私達の方が励まされ、教えられて帰路につき、快よいよろこびが皆の心に残り、また行こうと自分達の演技も然る事ながら次の計画を立ててしまふ。そして、仲間達は、体の不自由な人達の手足となつて動き、励まし、誰でも役につける。足の不自由な人は声を、手が不自由でも足が丈夫であれば人形の動きを、どちらも難しければ楽器をと、全員が動けるよう配慮している。  
仲間同志がボランティア。これが、風っこ歴史を作つてきた。

（ボランティアサークル「風っこの会」代表）

### 〈世帯更生資金貸付事業〉

昭和46年度から平成元年度迄の資金別

#### 貸付件数調べ

No	項目	件数(件)	金額(円)
1	更生資金	58	30,750,000
2	身体障害者更生資金	38	28,900,000
3	生活資金	2	366,000
4	福祉資金	9	3,340,000
5	住宅資金	58	37,375,000
6	修学資金	199	64,519,000
7	療養資金	39	2,964,000
8	災害援助資金	40	12,040,000
	合計	443	180,254,000

※平成2年3月末日現在貸付件数189件  
貸付額91,411,000円

生活福祉資金の実施運営主体は県社協であり、市社協も調査委員会を独自に設けて貸付業務にあたってきた（旧世帯更生資金）。たしかに、資金貸付業務は要保護世帯などを対象に、臨時的・応急的な生活資金の貸付を行い、そのための基金があり、大火復興の方は現在償還業務だけ残っている。

### 〈災害復興資金貸付返済状況〉

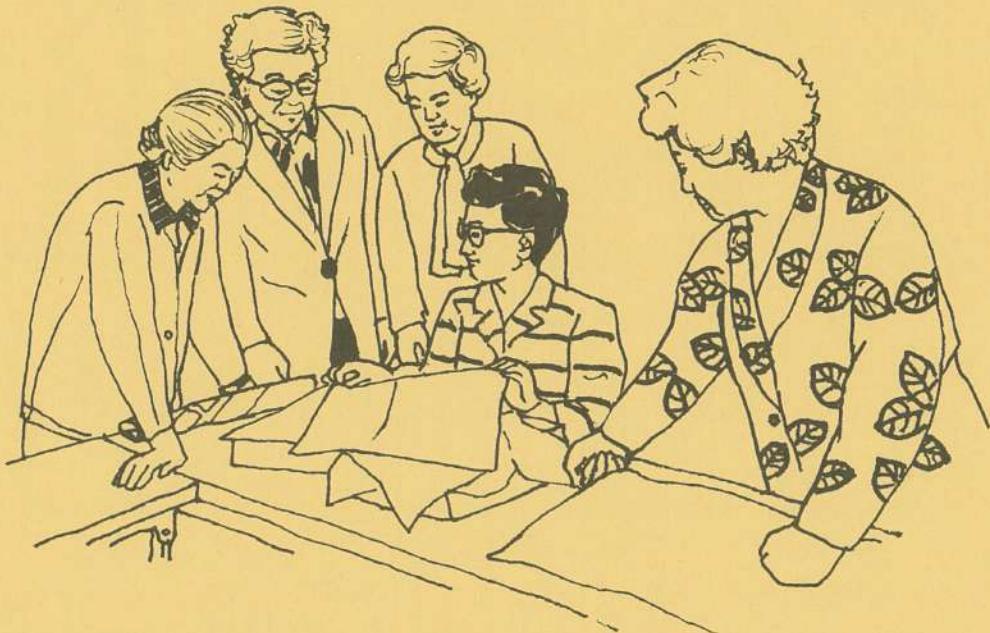
平成2年3月31日現在

区分	貸付返済		返済累計	貸付残高	返済完了
	件数	累計			
住宅資金	48	81,900,000	58,564,564	23,335,436	15
生業資金	11	11,300,000	8,077,224	3,222,776	5
土地資金	5	2,400,000	2,400,000	0	5
自治会館建設資金	4	8,000,000	5,935,400	2,064,600	
入学資金	4	900,000	768,361	131,639	3
下水道切替工事資金	1	200,000	36,300	163,700	
出産資金	1	100,000	5,700-	94,300	
結婚資金	4	1,800,000	1,512,800	287,200	3
葬祭資金	1	200,000	64,700	135,300	
換地精算金	6	4,910,589	4,191,378	719,211	3
小計	85	111,710,589	81,556,427	30,154,162	34
亀城学童保育所	1	1,000,000	257,000	743,000	

## 第2部

# 社協基盤づくり

## 母子センター完成、事務局移転

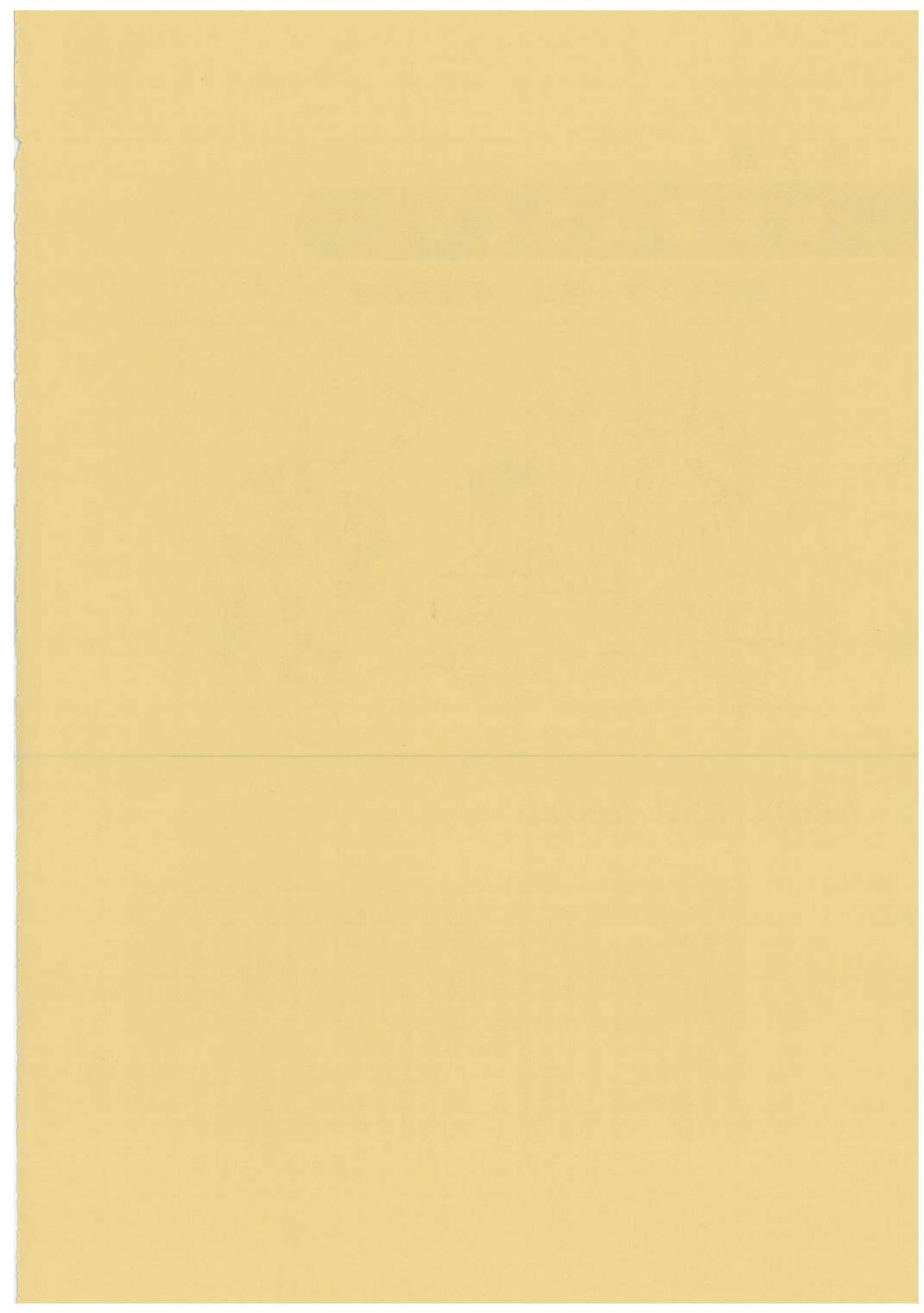


*heart and heart*

昭和四十五年の法人化にそうよう、  
社協一番めの施設となる老人福祉セン  
ター建築も企画されていました。県内初  
の記念すべき施設がこうして二年後の四  
十七年に竣工、初代局長をふくめて四名  
という最少人員で、自前の事務局開設に  
こぎつけたのです。

その後には、母子福祉センターの  
竣工をみて、十万都市にふさわしい社協  
事務局の専用室を確保し、事務局は隣り  
の母子センターの方に移転することにな  
ります。一方、福祉事務所に残っていた  
職員も合流しました。今もつて母子福祉  
センターを名のる建物は、県内に二か所  
あるだけです。

ここに、着々と社協としての基盤整備  
がすすみました。法人認可から五年めに  
二施設を完成させ、社協活動のなかみの  
充実にはずみがつきました。この間、五  
十一年末に酒田大火の災害にあります  
が、その復旧には相応の役割を担いまし  
た。創設期を五年とすれば、六十年の福  
祉のまちづくり市単独事業までを、そ  
後に備えエネルギーを貯える充電期とし  
て位置づけることができます。



こと等、思い出は尽きないものがあります。

高齢化社会を迎える、社会福祉協議会の役割は、ますます重要な役を果します。役職員の皆さんも大変だと思いますが、地域福祉の発展のために頑張って下さい。(元社協出向事務職員)

## 酒田大火災害復興資金たすけあい金庫



高橋 隆一

## 社協思い出あれこれ



福田 敏一

私が社会福祉協議会に勤務して一番の思い出は、勤務して間もなく酒田大火となり、全国から寄せられた義援金を酒田市からもらつて、酒田大火災害復興資金たすけあい金庫を設けたことです。被災者の皆さんには、仮設住宅や借家住いで苦しい思いをしており、一刻も早く復旧したいと考えておられたので、貸付相談を早急に開けるよう、規則の制定を急ぎました。

第一回の相談日には大勢の方がおいでになり、相談員の沼本さん、小野さんと共に、時間も忘れて応待したことがなつかしく思い出されます。

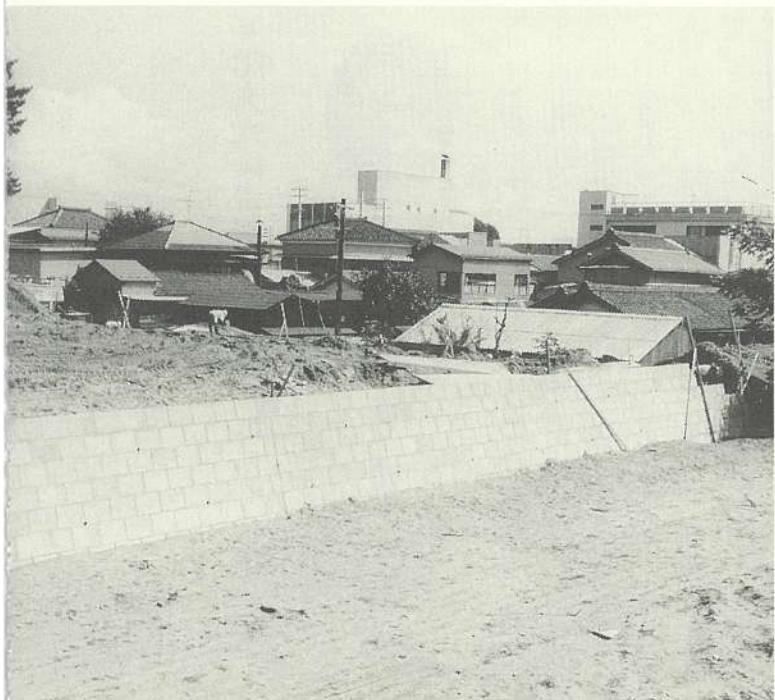
都市計画事業として復興される街が、次々と新しく姿を現わすことは、喜ばしいことではあります。被災者の心情を思う時、複雑な気持でもありました。

また、福祉事務所から委託を受けて、入浴車の運行と福祉バスの運行も昭和五十四年から始まりました。家族は入浴させたいけれど、当人は他人から見られるのは嫌だと断るケースや、風呂に入れられず家族から清拭だけを受けていた人が、たっぷりと体をお湯につかり、非常に嬉しそうな笑顔が印象的だった

年とともに社会の要求が多様化複雑化し始め、福祉にまつわる問題が多くなるなかで、運営面等幾多の厳しい困難を乗り越えてこられた関係者皆さんのがんばらないこれまでの努力と熱意が報いられ、ここに法人化なり二十周年を迎えるまでに進展されたことに対し深く敬意を表します。

顧りみるに、昭和五十三年に退職した私の第二の人生の始まりは、社協事務局勤務がスタートでした。福祉関係にはこれまで無縁でなかつた私の経験からして、的を得た職場でありました。ただ退職して翌日からの慌しい勤めとなつた私には、人生の区切りの時だけに、何んかものたりない味気なさを感じたものでした。

まだ、社協が福祉事務所の内に在り、専従職員として只一人勤務してた若い加藤(京)さんの姿を見られたのも、今では遠



## 木公の木は 見ていた

向こうの建物が昭和47年1月に竣工した県内初の老人福祉センター。翌48年10月から母子福祉センター建設に着工。旧琢成第一尋常小学校のグランド跡の土盛、整地から始めたところ。

い過去のものとなり、当時が目に浮かんできます。  
そして、老人福祉、母子福祉施設が新設し、社協事務局が移転となり、新規事業として「入浴サービス」と「福祉バス」が運行されたのもこの頃でした。

また、印象に残ることは、年度替りのあの部厚い決算書づくりのことと、恒例の職員旅行あり、旅先までの宴もたけなわ酔う程に自慢芸で一夜を心残りなく楽しんだことどもが思い出として、頭をよぎります。

在職三年の歳月は早く、職場の絆が深まるなか、為すことなく、大事なく過ごすことが出来たことに感謝し、そして短かい間のおつきあいでしたが、いろいろとお世話になつた先輩、同僚の方々の変らぬご多幸とご健康を念じながら擱筆します。

(元市社協事務職員)

### 民生委員連合会長のころ



熊谷 浩二郎

#### (一) 全員対象研修会の思い出

私が連合会長になつたのは昭和五十一年と記憶している。そのころの研修会は長年市町村委託を続けた結果からか、市町村間に「バラツキ」がみえ、とりくみ方や内容に反省を求められ

ておつた。そんな中で酒田市は昭和五十三年度いち早く運営を民生委員連合会に委託している。

理由は連合会に自主的運営の場を与えてくれたものだつた。研修企画は連合会でとりくみ、宿泊・輸送懇親会その他一切のことは福祉事務所職員挙げての協力ぶりであつた。有難いことで当時このようないふりは県下市町にはみられなかつたことで感激はいまもつて忘れられない。

## (二) 連合会長としていつも考えていたこと

1 現行の民生委員法で民生委員会及び民協は行政への協力機関として位置づけられると同時に、高度の自主性を与えられた。

これに応えるにはどうすればよいか。

2 連合会設置の一番大きな目的は、民協の力を結集して市福祉の向上に寄与するとされていること。

3 民生委員は制度化されたボランティアであること。

連合会長は常に行政（福祉事務所）及び、社協との連携いを考え、望ましい協力態勢つくりに率先して当るべきだと、いつも考えていた。  
（前市民生児童委員協議会連合会会長）



▲母子福祉センター前の松の木

## 入浴サービスの仕事をとおして



加藤芳祐

よく福祉、福祉と言われますが、福祉とは一体なんだろう。私が入浴車のヘルパーになる前は、福祉とは全然関係のない世界で仕事をして来たため、始めてこの仕事をして目をみはる事ばかりでした。正直言つて本当に驚く事ばかりでした。しかし一ヵ月二ヵ月過ぎて少し仕事に慣れて来ると、これが福祉かと始めて実感が湧いて来たようです。

入浴の申請があつて現場調査に行くと、早く風呂に入りたいと言う人、いやだとダダをこねる人、さまざまですが、一回入浴すると次回から待つて居てくれます。そんな時は「この仕事をしてよかつたなあ」と思います。

とにかく入浴というのはハダカのつきあいです。どんな人でも羞恥心は必ずあります。入浴する時は恥ずかしい所は隠してやるような、ちょっとした気配りがなければなりません。いくらボケているからと言っても、羞恥心というものはあります。まず第一にこんな所に気を使い、次に入浴する人が喜んでくれるような仕事をする事です。医学的にはこうだ、ああだと言いますが、入浴して喜ばれなくては仕事をした甲斐がありません。

### ■ 年度別・月別入浴車利用人数調べ

区分	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計(人)
昭和54年度	2	8	13	18	24	20	22	25	21	18	13	18	202
55年度	21	22	21	24	24	22	22	21	26	16	18	25	262
56年度	24	23	32	36	25	33	33	28	33	32	27	30	356
57年度	33	28	31	34	38	32	33	35	26	30	26	43	489
58年度	40	37	39	38	38	36	33	33	40	36	27	37	434
59年度	37	36	38	35	32	34	33	29	31	29	31	35	400
60年度	42	40	42	48	39	42	45	40	34	34	34	38	478
61年度	36	39	37	46	40	38	42	40	36	35	31	37	459
62年度	47	46	50	54	41	41	66	63	67	59	60	65	659
63年度	73	68	78	85	93	114	115	116	119	111	117	115	1,204
平成元年度	149	153	168	169	178	161	164	165	169	143	147	170	1,936

一般の人と同じように、熱い風呂が好きな人、ぬるい湯が好きな人さまざまです。それに最低限度こたえられるよう各人の性質を知り、対応して行くのが入浴サービスに大切な事です。

福祉というのは、なんでもやつてやれば良いと言うものではないと思います。立派な事を言うより、心のこもった内容となることではないでしょうか。

今、仕事をはなれて自治会や老人クラブの人達と楽しく過ごしていますが、私は常に、年をとつてからは寝かせていると寝つきりになる、つらくても起きることだと言っています。

これらの社会はますます厳しくなると思います。年をとつても寝つきりにならないよう、又入浴車の世話にならないよう、今までのわずかな経験ですが、それを生かして、地域の方々と手をとり合って楽しく住みやすい町づくりに寄与したいと思っています。

(前市社協家庭奉仕員、入浴車運転担当)



▲入浴車の前で

左から斎藤久治運転手、  
大川京子奉仕員、  
後藤牧子看護婦

青じよう報社の努力

## 『ほつけの日記』

福祉最前线から

清川市新報事務局 加藤 芳昭

▼山形新聞に紹介された加藤さん  
平成元年2月7日号

### 張り切る第一の職場

### 心を込めて入浴サービス



お年寄りの  
アイドルとなって

## 福祉バスの運転に従事して



佐  
義  
松



▲運行の無事を願って  
おはらいを受ける福祉バス

私自身、停年となる年令になりました。思い返して見ますと、昭和五十六年頃より約十年近い間、関係職員の方々、各クラブ、センター等の方々と共に、各地の施設や大会会場まで、近くの名勝地なども通過しながら福祉バスを運転させていただきました。最初の頃は、運転するにも、行く先々にも不案内で困ったものでした。生来福祉バスを利用される方々と気が合っていた見るのが、だんだんと楽しくなってきました。

社会福祉協議会法人化二十年間の歩みの中で、その一片を乗務員としてたゞさわることが出来、私の生き方が変わってきたように感じます。（市社協福祉バス運転手）

### ■ 団体別福祉バス運行実施状況

団体名 度	身体障害者福祉協会	視力障害者協会	老人クラブ連合会	母子寡婦会	交通遺児母親の会	民生児童委員協議会	傷痍軍人会	遺族会	一中実務学級	光風學園	行政	ボランティア関係団体	社会福祉協議会	その他団体	合計
昭和 55	27	15	3	9	1						3	4	4	3	69
56	38	31	7	8		4					9	2	8	4	111
57	49	36			12	6					16	2	16	4	141
58	30	24	3	11	2	5			22		22	1	10	9	139
59	32	37	7	9	2	2			19		9	7	8	6	138
60	24	28	7	10	2	4			18		11	15	7	7	133
61	31	32	6	11	2	3			16		13	10	11	6	141
62	26	35	7	9	2	5			16		10	9	13	3	135
63	31	32	6	12	2	7			21		8	10	16	10	155
平成元	27	40	3	13	2	4			24		10	8	24	9	164
計	315	310	49	104	15	40			136		111	68	117	61	326
備考											・福祉事務所 ・松林荘	・演歌同好会・ともしび会 ・新堀在宅ボランティ	・自治会・保護司会 ・東禪寺生活学校 ・市社協・地区社協 ・福祉のまち		

# 母子寡婦福祉会



杉山 実美

こんな願いをこの事務所に寄せてはいるのです。戦後の混乱の中から、未亡人の方々が手をつなぎあつて結成した母子寡婦福祉会は、今年十一月全国四十周年記念大会が開催されます。その間、母子寡婦福祉法をはじめ数々の福祉制度を築きあげて来た先輩の血のにじむような努力には、唯、頭の下がる思いでいっぱいです。

(市母子寡婦福祉会会长)



▲歴代会長／平成元年6月の総会で

右から初代・阿部政井、2代・伴貞子、  
斎藤登代副会長、遺族会婦人部長・堀あさ、  
現会長・杉山実美の各氏

今年六月、総会の席上で嬉しい報告をする事ができました。それは、母子福祉センターの三階に事務所を開設する事を、社協の施設運営委員会が正式に認めてくれた事でした。

初代の阿部政井会長の時代に建築された母子福祉センターには、当時ささやかながらも精一杯の資金を出しあって、共に建設を喜びあつたと聞いております。二代目の伴貞子会長が一年勇退され、その後現在に至るまでもずっと、総会、役員会は勿論すべての活動の拠点となりました。毎年行なわれる母と子のつどいでは、小学校、中学校に入学されるお子さんにお祝いを進呈して、社会の荒波の中で女手一つで育てて来たお母さんへの励ましの心を表わして参りましたが、この事業は社協の賛助金を土台として実行させて頂いています。

この度の事務所開設につきましては、福祉事務所並び社協の暖かいご理解と援助、そして会員の方々の強い協力態勢があつたればこそのことでした。週一度土曜の午後そこに意見が集まり、事業計画がなされ、個人宅で行なつていた貸付事業が行なわれ、涙をこぼし、そして笑い、気軽にお茶がのめたら……。

## 地区社協の活動



▲「親と子のふれあい広場」／新堀地区社協、同地区青少年育成協議会共催。写真是平成元年1月22日開催のもので、佐藤安正先生の講演をお聴きした後、たのしい「母と子の料理教室」が開かれました。会場には、よい子の当選標語もかかけられています。



後藤 正身  
まさみ

新堀地区社会福祉協議会は、昭和五十六年の発足であります。当時あまり福祉活動には関心が無い時、当時の民生委員の方々の熱意で発足しました。民生委員の方々は、熱心に各団体長に話しかけ、特に各部落会長を対象に説得し、発足したものです。

福祉活動するにも経費が掛りますので部落会長会で取り上げ、今日に至ったのです。現在予算面では、地区全戸を対象に負担をしていただき活動しております。主な事業としては、春には各部落毎の敬老会、七月には地区慰霊祭、九月には地区全体の敬老会を行ない、敬老会には地区全体の七十歳以上の方々を対象に、四一一名の方に案内状をさし上げ、一二三〇名の方々を迎えて盛大に行なわれました。冬季には、老人の健康管理として、室内ゲートボール大会を行なっております。又、各ボランティア団体に活動資金として補助金を出し、育成しております。最近、在宅ボランティアの活動に目覚ましいものがあります。老人一人暮らしの方々に、給食サービス年四回、一食は会食として日ごろの慰問を兼ねて、盛大に行なっております。

最近、福祉のネットワーク作りがクローズアップされております。当地区社協でも、昨年十一月秋田県協和町の社協を視察して、当地区社協としての取組方を考えております。

今後、誰もが迎える高齢化社会を見守りながら、地区社協としての使命と在り方を、酒田市社協の指導のもとに、その時代にあつた事業と運営を行つて行きたいと思います。

(市社協役員、新堀地区社協会長)



### 杉山 緑子

本楯地区の地域住民による福祉に関する各種の自主的活動をとおして、福祉思想の高揚を図り、明るく住みよい地域づくりを推進するためには日々の活動を行なつてている。

たとえば、在宅福祉対策としては、食生活改善推進委員、地区ボランティア、民生児童委員等の協力により、独居老人世帯に対する給食サービスと友愛訪問を行ない、回を重ねるたびに心を開きあつた交流ができるようになつた。また平成二年度には、独居老人に対して調理講習を行ない、参加することのできない老人には民生児童委員が配食サービスを行なつてている。市福祉からの財政的援助と地区の協力でなされている。

さらに意識の高揚を図る意味で、市福祉や市社協より講師を招き、福祉講座等を開催し、老人福祉サービスの概要や援護の状況などの講義を受け、それを活動の支えとして市内老人ホーム等を訪問し、地区での実践活動に生かしている。また、地区老人対策の一大事業である「敬老のつどい」をとおして地区在

住の老人たちとの交流を図つてはいる。交流のもう一つの形として、老人と子どもたちの「ふれあいゲートボール大会」も行なっている。地区的ボランティア活動については、地区コミュニティ祭りの一環として、幼児や小学校低学年の子どもたちに、手づくりの紙芝居、ちぎり絵やきり絵などの発表をしている。

ただボランティア活動の人員の確保が年々むずかしくなつていて、今後の課題となつてている。

(市社協役員、ボラントビア「福祉のまちづくり」副委員長、本楯地区社協副会長)



▲ ゲートボールでお年寄りと子供のふれあい  
(中平田地区社協)

## 地域に密着したボランティア活動を



▲聖夜のボランティア／身障者センター恒例のクリスマスパーティには、日中働いてきた身障のみなさんを中心にボランティアの仲間が集まり、いつものことながら手づくりの集いがなんとも楽しい。

◀ 渡部栄二青年部長が励ましを受けたという第5代事務局長、故本間寿三氏（平成元年8月14日逝去）。



渡 邦 純  
ニ

私達身障青年部のボランティア活動は、地域に密着した活動を主体として行なっております。例えば、老人ゲートボール大会、老人スポーツ大会、酒田市で主催する「子供祭り」などに放送設備の設置をしたり、いろいろな放送に関係することとか、重度障害者宅をはじめ、学校、公民館地区、障害者施設、老人ホームへの映画訪問などのボランティアを行なっています。

このように私達を指導して下さいましたのが、社協の前事務局長さんだった、故本間さんでした。本間さんは、私達を見たびによく言いました。

「障害者でも、甘えるな、自分達ができないときはボランティアを頼みなさい。障害者でもできることがあるはずだ。ただ、あなた達はやる気持があるのか。」

と耳にタコができるほど聞かされ、本格的にボランティア活動を始めました。

自分達が挫折などした時、本間さんのあの言葉を思い出しては、頑張りました。これからも、地域とつながりを持てるボランティア活動を続けて行きたいと思っています。

（市身障協会青年部長）

## 老人給食のはじまり



渡田 礼子

私は民生委員として、ひとり暮らしの老人宅をおたずねすることが多い。

そのつど、お年寄りの寂しそうな様子を感じることがある。なんとか、少しでも明るくする方法はないかと考えているうち、月一回でも給食をお届け出来たら喜ばれるのではないかと想い、渡部婦人部長と話しあった。

その結果、地域福祉として地域全体で無料配食出来ればよいのだが、まず婦人部の活動として実施し、その結果を見て判断していいこうということになった。

さいわい、社協の佐藤局長さんの賛同を得、その上、奥山保健所長さんからも大賛成をいただき、いろいろのご指示、ご指導を得た。

予算の関係もあり、一食一百五十円で昭和六十年秋から開始した。お年寄りからは大変に喜ばれた。その反響を聞いた県社協からの要請で、県大会、東北大会で事例発表もさせて頂いた。老人給食を始めてよかったですと共に、当初考えたように、地域福祉活動として、地域社会の人びとの協力によって、さらに発展させて頂きたいと願っている。

(前市民生児童委員連合会副会長、前心配こと相談員、民生委員OB会)



▲民生委員と婦人ボランティアによる老人給食調理風景（付設作業所調理室で）



### ►こんだての1例

ごはん、味噌汁、焼魚、煮ものにおひたし、酢のもの、デザートにみかんと盛りだくさん

## 老人付設作業所建設ができて



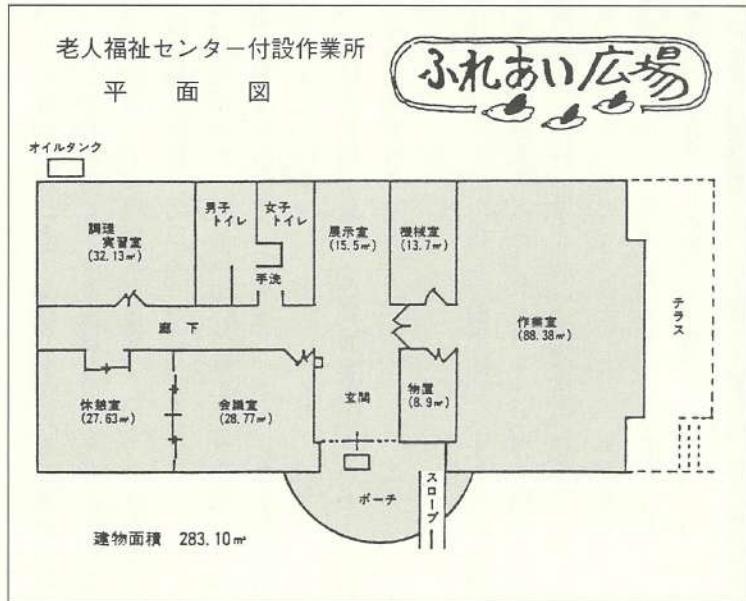
杉山 勝義

わが国の平均寿命が伸びて高齢者対策が真剣に論議され始めたころ、酒田市においては「老人のための明るいまち推進事業」の指定を受け、三カ年にわたり各分野に数々の成果をあげて参りました。この成果が、指定期間中だけのものに終ることなく、「高齢者の生きがいと健康をすすめる」運動に結びつくように専用の施設が必要と考えて、酒田市並びに社会福祉協議会に陳情の結果、幸い採択され、見るとおりの立派な作業所が完成し、利用させてもらえることは本当に幸せです。

ところで、作業所の利用については市社協の指摘を受けるまでもなく、生産的活動に利用するのが目的でありましたが、頭初計画した流木等の古木磨きは、指導者の関係で中止となりました。次に放置自転車の再生という案も出されたが、土間がなないと具合が悪いという構造上の問題もあって実現に到つておりません。

現在、作業所を利用しているのは手芸教室（通年）、高齢者の栄養教室、料理教室（通年）、体育部の各種行事の準備作業、連合会理事会、地区連合会々長会議等で目的外使用になります

### ■生きがいの増進と創造を高め豊かな人生を送るために



（市老人クラブ連合会会長、市社協役員）

## 第3部

### 社協 一つのハードル

ボランティア事業をとおして

*heart and heart*

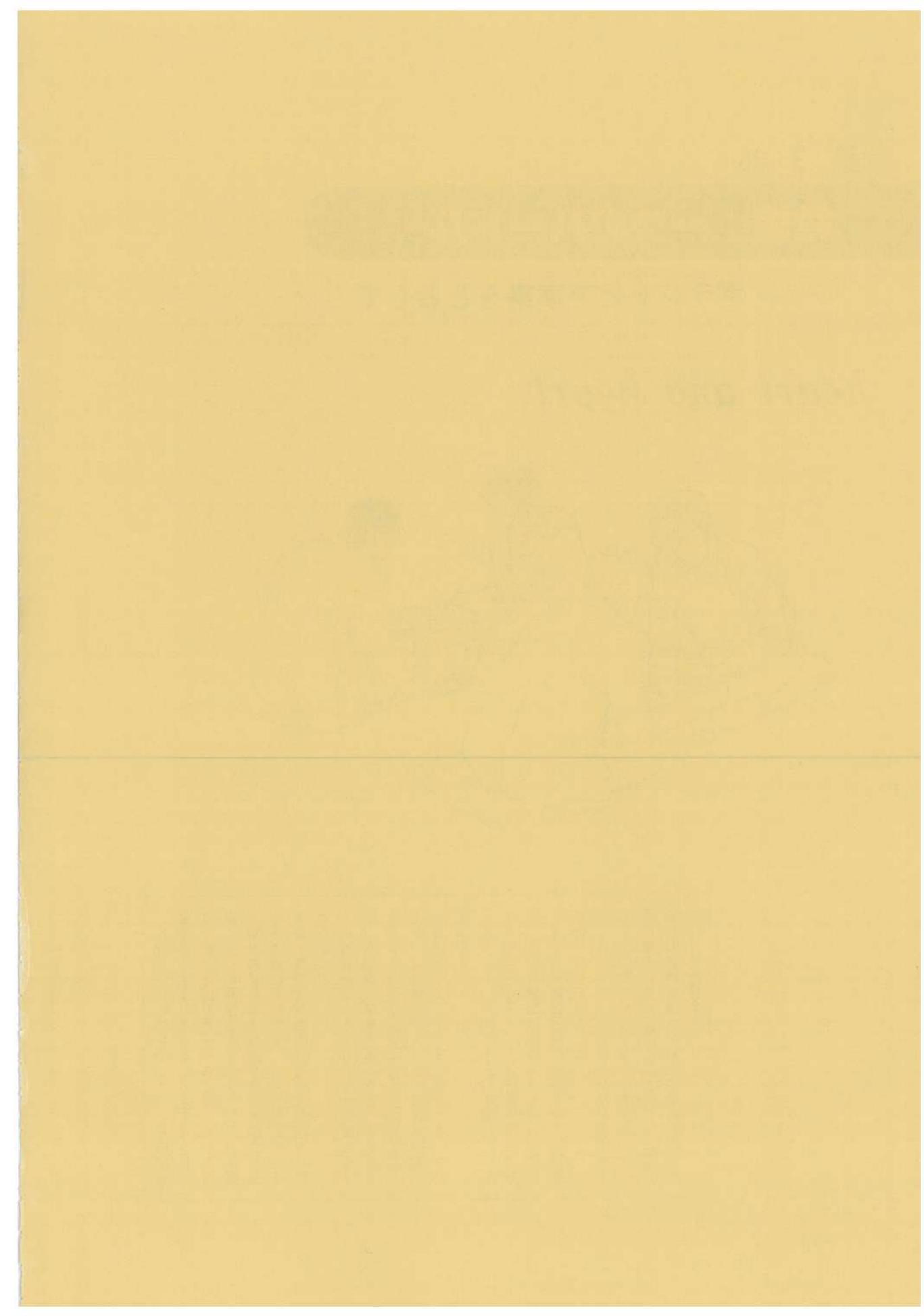


昭和六十年の福祉のまちづくり市単独事業は、生まれるべくして生まれたものでした。その翌六十一年には、それを引き継ぐように厚生省からボランティア事業（福祉のまち育成推進事業）の指定を受けます。六十二年にわたる実質一年三ヶ月の間、真剣な取組みが行われました。

地域福祉にひろがりをもつ転機ともなる、画期的な事業であったという実感をもちます。福祉の輪を広げて一般市民や、あるいは団体を多少ともつなげる役割の一端は担うことができたのではないかと思います。

すなわち、市内二十三の小学校区にすべて福祉のまちづくり推進協議会をもち、すでに地区社協のあるところは別として、将来地区社協に切換えるべき組織が作りあげられました。

もう一つは、それまでバラバラにあって横のつながりのなかつたボランティア団体をまとめて、福祉のまちづくり同様、独立の連絡協議会を結成することができたことあります。





▲親と子と白鳥のふれあい／最上川辺で白鳥の餌付け教室

## 市単「福祉のまちづくり」事業



佐藤  
勝  
一

この事業は、昭和60年度に新規事業として発足しました。地区指定（小学校区を基準）など実施に当たって、自治会連合会、各自治会、部落長会等の深いご理解と、並々ならぬご協力をいただきました。

受け入れに際して議論されたことは、どんな活動を選択するか、地区指定が終った後の活動はどうなるのか（特に資金）、民生児童委員、行政との連携のあり方、要援護家庭等のプライバシーを守るには――、経理面での手続きは――、等々数多くの問題提起がありました。

次に、新規事業を計画した背景にふれてみます。

身障者福祉都市事業に統いて、老人のための明るい町事業が昭和58年度で終了し、福祉への関心が高まっている環境を、今後どう引継ぐかの課題を抱え、そして民生児童委員協議会では、在宅福祉充実のために、ボランティアの発掘と、活動の場としてコミュニティセンターの必要性を機会ある毎に訴えておりました。

また、社会福祉協議会では、社協の基本理念にのつとつた活

動のより充実を図る上で、地区社協の組織化が課題になつてゐたと思います。

行政では、活力ある社会は、基礎となる福祉がしっかりとすることが前提と考え、高齢社会に対応するには、これまでの人生50年時代の福祉から人生80年代への軟着陸の為に意識の改善が必要であるとして、見通しの必要なものにも取り組み、新たな福祉需要に最大限に応える方針をとつております。

この事業は社協に委託して行われましたが、昭和61年度からボランティア事業に吸収され、僅か一年の寿命に終わりました。

(元酒田市福祉事務所長)

## ボランティアで芽生えたものを大切に



佐々  
木  
一  
也

六十一年末、ボランティア事業の指定を受け、六十一年度三月末まで完了の指示で酒田市より社協が委託を受け、事業に取り組む事となつた。当時酒田市は、年〇・五%の老齢人口の増加(六十年一二・一三%、六十一年一二・六五%)で、今後の高齢化時代の福祉のありかたを模索中であった。

社協は年の暮で各種募金、その配分等多忙な時期、早速事業計画や予算の作成ならびに組織作りと大変なことばかり。幸い

六十年度より市委託で「学区福祉のまち育成事業」に取り組んでいたので、事業指定を機会に全市を上げて取り組む段取が出来た。

先ず初年度は、三月末まで組織作りで終り。二年度、事業が本格的に始動。さて地域に入り、事業の説明をしても「ボランティア」という名称では理解されない。これには社協局長初め次長、地域の代表者が大変苦労された記憶が残つてゐる。以前より、老人給食を民児協婦人部が老人福祉センター付設作業所調理室で開始し、繁盛していることを見るとき、作業所建設は先見性があつたと深く感じられる。現在付設作業所増築中で、今後の社協活動活性化には大いに期待される。

福祉に関する事は民生委員の仕事と考え取り扱つて來た事柄も、福祉のまちのなかで取り上げ、民生委員と連絡を取り合い一人ぐらし、老人世帯、その他児童問題等数々の福祉ニーズが出て居る現況である。最近まで社協事務局の場所も知らない市民がボランティア活動を初めて知り、ボランティア団体へ加入、各種社協事業にも協力するなど、ボランティア、プラン80と短い期間では想像以上の成果が認められる。

このように考えてみると今後益々福祉ニーズの需要が多くなると予想され、ボランティアで芽生えた芽を市民の理解と協力で、誰もが安心して生きがいのある町づくりに、行政初め住民、社協一体となり、「草の根福祉」を市民運動として大きく発展させ、組織化する事が今後の社協の任務であり課題と思われる。

(社協役員、ボランティア事業ボランティア活動  
開発副委員長、社協企画財政副部会長)

## 社会福祉にたずさわつて



田村 玉隆  
(きよくりゅう)

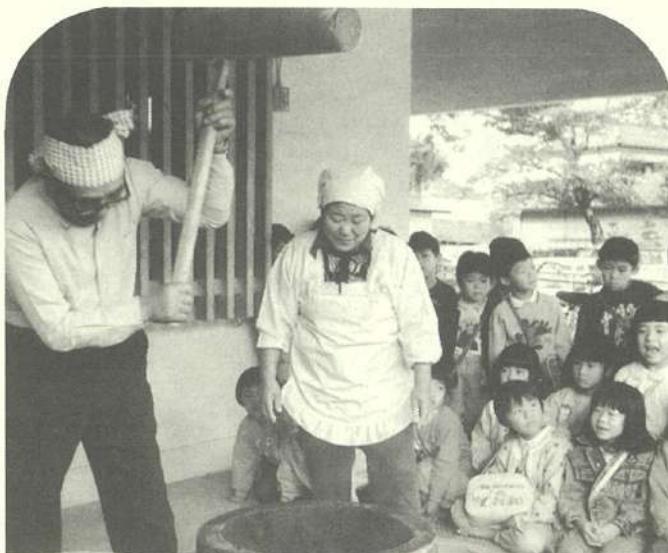
従のボランティア活動指導員も配置されるなど、酒田市における福祉活動の体制整備が一段と充実されるにいたりました。今後ますます多様化、複雑化する福祉ニーズに応えて、社会福祉協議会は民間福祉団体として、自主的な福祉活動の中核となり、その組織機能を十分に生かした地域福祉、在宅福祉を推進し、常に新たな視点から質の高い福祉サービスの供給が期待されることと存ります。

（元市福祉事務所長補佐、前社協業務次長、  
同ボランティア・コーディネーター）

社会福祉協議会に勤務したのは、昭和六十一年四月から二年間と、平成元年四月から一年間の通算三年間ですが、六十一年度から二ヵ年継続事業として、国のボランティア事業の指定が初年度の年末の十二月に決定となり、実質一年三ヶ月の期間でボランティア事業に取り組みました。

この事業は、高齢化時代を迎えて、市民が自発的に福祉活動に参加し、「誰もが安心して暮らせる明るく住みよい福祉のまちづくり」と、永続性のある「ボランティアの育成」のための組織と基盤づくりがありました。

指定の期間中に、福祉活動を支え推進する「福祉のまちづくり協議会」が全小学校学区にでき、その連絡協議会組織もつくられ、また、ボランティア相互間の連携を図る「ボランティア連絡協議会」の組織もボランティアの方々の努力でできました。今、ボランティア事業が終わり振りかえってみて、将来に向けての提言と課題であった「ボランティア活動センター」の設置と「ボランティア活動指導員の配置」など、次々と現実のもとのなり、現在ボランティアセンターも建設の途上にあり、専



▲本橋地区のもちつき大会

ひよこが大きな口をあけて待っています。

## 福祉のまち推進連絡協誕生のあとさき



佐 崑 士マ雄

市内にある二十三の小学校区に「福祉のまちづくり」組織が出揃ったのは昭和六十二年の夏頃である。昭和六十年度の六学区にはじまり、三年間で全部の学区にできたことになる。私は真ん中の六十一年度に浜田学区の組織化に当つたのであるが、当時の当事者意識は私だけかも知れませんが、極めて安直なものがあり、今から思えば恥かしい限りである。

然し、この年の秋、酒田市が「ボランティア事業」の指定を厚生省から受け、各種の事業を実施したことにより大きく飛躍することとなつた。全学区組織の共通の理解を深め、情報交換の場としての組織「酒田市福祉のまち推進連絡協議会」もほぼ同時に誕生したのである。

更に、翌昭和六十三年秋には「プラン80」つまり「地域老人福祉システム開発育成事業」の指定を受け、約二カ年に及ぶ官民共同の検討とモデル事業の実施は、「本物の福祉」がそこにあるという感触を得たものといえる。

その間、官の市当局、民の「市社会福祉協議会」の果たした役割は大きく、高く評価されなければならないと考える。私達

の目指す「いつでも、どこでも、誰でもが欲しがる質の良いサービスの提供」を究極目標とし、施設の拡充、積極的な行政施策と併せて、人間性豊かな心のふれあいを基調とする「在宅福祉」、「地域福祉」の充実を実現することが極めて重要であると考える。

中長期の展望に立つた「ハード」面の施設の増設を期待することは当然であり、むしろ求める必要もあるが、一方で「心をどうするのか」にこだえるには、「ソフト」面での住民相互の支援体制の構築が重要である。「自助・公助」は勿論重要であるが、地域でみんなの力を少しずつ出し合って助け合うこと、これが最も大事なことであり「草の根福祉」の原点でもある。

（社協役員、ボランティア福祉のまちづくり委員長、  
社協企画財政部会長）

## ボランティア連絡協議会の基礎づくり



近藤 悅雄

酒田市が厚生省の指定をうけ、ボランティア推進事業を行なつたのが昭和六十一年と六十二年でした。この機会をとらえ、従来からいろいろの分野でそれぞれの活動を続けている多くの団体相互の連携をはかり、又ボランティアの開発と育成援助を



▲左右の写真はいずれも広野地区社協主催の「福祉の集い」(広野公民館)。さまざまな工夫をこらしたり、恒例の行事となっています。

行ない、社会福祉の向上に寄与することを目的に、昭和六十二年七月に酒田市ボランティア連絡協議会を発足させました。

当初は二十団体でしたが、年四回の情報紙を発行し、講師を招き研修会の開催、又会議を重ねて交流を深め、ボランティアルームを開設し、コーディネーターを配置するなど体制の整備を行ないました。年二回、全戸配布の「ボランティアさかた」を発行し、ボランティア運動の啓発に努めました（第三号まで発行）。現在、二十九団体と個人ボランティア一グルーブまでに成長しました。

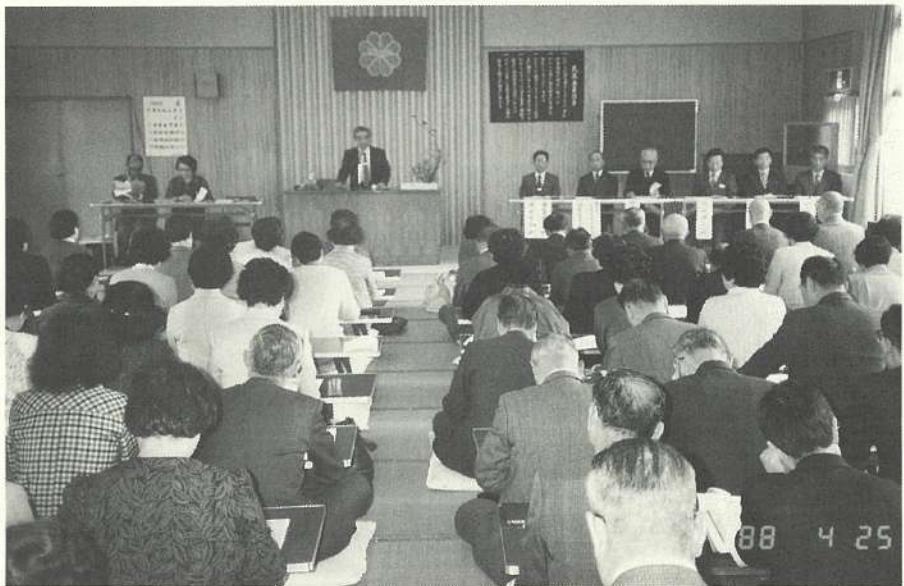
この間、酒田市福祉大会開催には設営と運営に大きく協力できましたし、又施設への激励慰問、行事などへの参加、協力に活動の面でも大きく行動することができます。今老人センター附設作業所二階の増築工事が進み、ボランティアセンター完成を目前にし、ようやく基礎が固まってきた感じです。平成元年には「山王森の緑を育てる会」が建設大臣表彰を、平成二年には「風つこの会」が厚生大臣表彰をうけるなど、ボランティア団体は活躍しています。

高齢化が進行している中で、地域福祉の重要性とボランティアの果たす役割の大きさを認識し、市民各層の御支援御協力をいただきながら、更にボランティアの開発と育成に心がけ、大きく成長させたいものと考えております。

（社協役員、ボラントビア事業ボランティア活動開発委員長、ボランティア連絡協議会会长・社協福祉活動部会副部会長）



土岐 千也重



▲民児協総会であいさつをのべる斎藤知利会長

先日、歴代社協局長のつどいに臨席させていただいた。その中で話題に出された事は、その時代に於ける社会福祉のありかたと、なみなみならぬ福祉活動の実践であった。

さて、我が国は世界に例を見ない超高齢社会を迎えようとされている。酒田市もそれにもれず長寿社会に入りつつある。これは誠に喜ばしいことであるが、高齢者を中心とする介護ニーズの多様化とともに、新たに対応すべき福祉サービスが要求される事は必定である。

ところで、酒田市では、「草の根福祉」という事で、新しく地域におけるサービスの掘り起こしに社会福祉協議会・福祉事務所等懸命であるが、ここでサービスのネットワークを作る上で、民生児童委員の情報が欠かす事の出来ない重要な要素となつてくるのである。なんだか少し理屈めいて来たが、私達民生児童委員は、このルールにしたがって活動を展開しているのである。したがって、民生児童委員は、社協とともに地域福祉推進の中核としての活動が期待されている事を信じ、積極的な参加を心掛けて来た。

かつてのボランティア活動も、福祉のまちづくりを基に、今に続けられている。最近、「家庭における介護能力の不足」が提起されているが、酒田市では、虚弱老人の為の「デイ・サーサ

「ビスサンター」の施設の竣工をみた。これは一つの例であるが、行政は勿論のこと、社会福祉協議会・民生児童委員そしてまた地域を大切にするみんなの願いであった。私は、今更ながら、その力の大きさを思い、より施設サービスの拡充を願っている。

(市社協役員、市民生児童委員連合会副会長、  
社協福祉教育広報部会長)

## 自治連と社協活動



宮原末株

自治会連合会は、親睦を第一として発足したやに聞いておりますが、最近の活動状況は行政の末端と住民のクッションとなり、コミュニティ、福祉のまちづくりと市民生活の向上に欠かせない存在となつてていることは周知のとおりです。この現状に即応して、市当局は福祉センター（仮称）の建設を実現、当自治連の事務所も設置して頂き感謝申上げます。新しい皮袋には新しい酒!!のたとえもあり、内容の充実と運用の適正が急務であり、初めての試みでもあり、試行錯誤を経て市民の期待に報いるべきは当然の責務と思います。

最近の急速な高齢化に、行政、社協等追いつけない現状のようですが、「予防に勝る治療なし」のたとえもあり、ただ高齢

化世界一も結論ですが、高齢だけで幸せとは言えない!! 健やかに、自分の判断で、自由に動いて、生活できること!!が条件で、寝たきり、ボケは誰も好まない。そして、或る日突然発作等はあり得ないと言わされており、予防医学の周知によりかなりの防止ができるのではないかと思われます。この点の盛上げの検討を提案したいと思います。知らない為の不幸を少なくする為に。

(市社協役員、市自治会連合会事務局長)

「福祉のまちづくり推進事業を通して民生児童委員と連携を深めながら、地域福祉について幅の広い協力活動をもつ」は、昭和六十一年度市自治会連合会の事業計画の一項目に織りこまれた実践条項です。

ボランティアの事業推進にあわせ、組織でも学区活動部会をおこし、さらに進展のための組織検討委員会を通して、現在のコミュニティ福祉部会に至つております。

こうして、常に社協活動をサポートするような形で、市民参加の福祉は自治会長のリードで推進されてきました。酒田市の自治会長は市長委嘱によらず、完全なボンティアですが、情熱をたぎらせております。

## ボランティア・サークルと社協



糸川 藤緑

と思っている人が多くいることが、わかりました。そのニーズを大切にしていきたいと思います。

最後に、ネットワークの重要性です。まさに、社協は地域福祉のネットワークの中心です。今後、更にその機能が期待されることでしょう。末筆になりましたが、二十年間の多くの方があたのご努力に敬意を表すると共に、これから社協のますますのご発展を祈念申し上げます。

(ボランティアサークル「あらた」会長)

## 車イスでどこまでも

私たちの酒田

福祉マップ「車イス」編

ボランティア・サークル「あらた」

▲ボランティア・サークル「あらた」(会員18名)は、昭和62年に「あらたな福祉を築こう」という目的で結成されたボランティア団体です。

第三に、物的な環境の整備です。確かに、恐ろしい歩道のスロープや段差もありますが、歩道に商品や、自転車が置いてあります。通れないこともあります。環境整備と市民の意識は大いに関係があると思います。

第四に、潜在的ボランティアの存在です。何かをしてみたい

私たちのサークルは、社協はじめ多くの方がたのご支援とご協力を頂き、今年でやつと四年目を迎えることができました。福祉マップづくりでは、多くの組織や個人からなるネットワークの成果と、心より感謝申し上げます。参加した自分も人も、そして、その活動も、社会も、共に育つ活動を目指しはじめました。実際に活動をしていて多くのことを学びました。

第一に、偏見です。障害があつても心身共に健康であり、立派な社会人であるという当たり前のことを再確認しました。第二に、同情です。「かわいそう」という同情の視線は、体に心に突き刺さってきます。本当に辛い。これでは、外に出られない、人間らしくいられない。当たり前に見て欲しいと思います。

第三に、物的な環境の整備です。確かに、恐ろしい歩道のスロープや段差もありますが、歩道に商品や、自転車が置いてあります。通れないこともあります。環境整備と市民の意識は大いに関係があると思います。

第四に、潜在的ボランティアの存在です。何かをしてみたい

## ■ ボランティア団体・サークル活動内容

平成2年10月現在

No	結成	団体名	代表者	会員数	活動の内容
1	45. 4. 10	風っこ会	宍戸喜美子	20	人形劇を通しての施設訪問、行事参加等
2	59. 7. 22	酒田演歌同好会	板垣 隆二	27	歌による施設慰問活動（2ヶ月に1回）
3	46. 10	酒田手話サークル 「ともだち」	岡部 健一	14	ろうあ者の耳と口の代役活動
4	4. 3. 11	酒田点字読書会	亀川 昌三	52	盲人のための読書奉仕活動
5	60. 4	酒田市婦人ボランティア OG会	高橋イチ子	26	福祉施設ふれあい訪問（老人、障害）、 環境美化活動等
6	23. 4	酒田市中央高校家庭 クラブ・インターハクトクラブ	斎藤満州美	39	児童福祉・老人福祉施設へのボラン ティア、留学生と国際親善等
7	48. 5	身体障害者福祉協会 青年部	渡部 栄二	85	福祉団体の映写・放送への手伝い、 福祉施設映写の奉仕活動
8	62. 10. 19	ボランティア・サークル「あらた」	斎藤 緑	18	福祉マップづくり他
9	54. 4. 1	酒田飽海建設総合組合 青年部	高橋 協藏	200	献血運動、住宅デー奉仕、一人暮 らし老人労力奉仕他
10	58	本楯ボランティア	杉山 綾子	12	老人給食、子ども育成への協力他
11	55. 4	新堀若葉会	奥山 秀子	10	老人給食、遊園地清掃他
12	57. 4. 1	新堀地区在宅福祉 ボランティア	奥山 栄子	35	老人給食、遊園地清掃他
13	57. 11. 3	広野ともしび会	熊谷治三郎	71	老人通院者送迎、ねたきり介護他
14	61. 12. 1	酒田民生委員OB会	須田 禮子	49	老人給食、施設慰問、リサイクル活動他
15	61. 6	中平田保健連絡会	佐藤 行	7	福祉施設慰問他
16	57. 11. 1	ボランティア日和会	後藤 繁弥	60	視力障害者のためのテープ広報作成
17	42. 4	酒田市白鳥を愛する会	須田 吉弥 (22-3646)	21000	子どもの情操教育、地域住民のふれ あい活動、白鳥のえさ収集他
18	52. 7. 30	山王森の緑を育てる会	斎藤伊三郎 佐藤 悅雄	247	山王森の植樹と環境整備、日和山 公園まつり、地域のふれあい行事他
19	63. 2. 12	庄内海浜観光協会	守屋 元志	101	埠頭清掃、観光客案内、福祉施設奉仕
20	59. 2. 19	庄内マジックくらぶ	須藤 清美	6	マジック、剣舞等による福祉施設慰問
21	60. 3	柏樹会	阪東久里菊	18	日舞、歌謡、民謡踊り奉仕活動
22	1. 6. 30	民謡睦実会	後藤 幸	25	民謡奉仕活動
23	1. 10. 1	明るい社会をつくる会 事務局長	大場 昇 早坂新五郎	250	社会奉仕活動
24	1. 11. 1	滴翠会	横地カヅヨ	7	お茶の奉仕活動
25	63. 9. 1	太田医院うぶごえ会	太田 恵子	26	ギター、大正琴演奏慰問
26	2. 5. 14	中平田ふれあい	丸藤 春世	11	
27	2. 7. 2	浜田学区婦人給食会	佐藤 節子	22	
28	54. 6. 1	酒田地区中高年共済会	菊池 藤夫	175	
29	2. 6. 21	個人ボランティア(代表)	小野 俊夫	11	

福祉教育協力指定校になつて

## 地区老人クラブとのゲートボール大会

年期が“ちがう！” ハーフーが“ちがう！”

■孫を見るようなお年寄りのあたたかいまなざしに見守られて



一人でお元気にお暮らしておられるお年寄りの姿に、若い生徒達は何を感じ学んでくれるのでしょうか。「これ先生にって、肌をいつまでもピチピチにする海藻だつて。」と話してくれる生徒の表情は活き活きとしていつもより輝いてみえます。教室の中では得られない貴重な何かを体験してきたことが解ります。赤い羽根共同募金には、33名の生徒達が自主的に協力し街頭に立ちました。何年か前、2名の生徒と街頭に立ったことを想

一人暮らしの老人慰問は、曜日を指定しておみやげ代を持たせてやると、自分達でおばあちゃん向きの品を定めて慰問し、玄関先で立ち話をし、話がはずんで二時間近くもあり、立つているのが辛い位だったと報告してくれることもあります。

我が校の奉仕活動の歴史は古く、昭和25年に設立された家庭クラブと共に今日にいたっています。福祉協力指定校になつて五年目、少しずつではありますが多くの皆様の暖かいご支援のお陰でその成果は確実にあがつていると言えます。

例会や奉仕活動に毎回参加する生徒の人数が増加し、そのメンバーが定着してきたからです。例会は月に一～二回集まつてスピーチをきいたり、活動を終えたボランティアの感想を報告したり、予定を連絡し合つたりする会で、その時に出るチヨツピリのお菓子も生徒達には楽しみの様です。奉仕活動の一つ、

お陰でその成果は確実にあがっていると言えます。

廿四  
すみ(満洲美)

S62.10.8／福祉協力校五中生徒と

## あなた作る人、ぼく食べる人

■ 女生徒がまごころ込めて料理したいも煮でみんなニコニコ



於／五中グランド

### <福祉教育協力指定校一覧>

#### ■ 市社協

- 〈昭和62～63年度〉・宮野浦小・第五中・中央高校  
〈平成元～2年度〉・亀城小・平田中・中央高校

#### ■ 県社協委嘱協力校

- 〈平成2～4年度〉・泉小・第六中

#### ■ 協力校における活動（事業メニュー）

〔例〕

- (1) 在宅老人や在宅障害児および老人ホーム等の社会福祉施設の訪問活動
- (2) 地域福祉施設の見学会や学習活動
- (3) 社会福祉施設における宿泊実習
- (4) 校内ボランティアスクールの開催、福祉講話、映写会の開催
- (5) 地域の老人クラブ、障害者団体等との交流
- (6) 活動体験集などの発行、体験発表等の開催
- (7) 調査、研究活動
- (8) 各種福祉行事への参加
- (9) まちの清掃美化活動
- (10) 協力校相互交流による福祉研究活動

(市社協福教育協力校・市立中央高校  
インタークラブ指導担当)

い感無量でした。一人でも多くの生徒達にたとえ一回でもよいから奉仕する機会を与え、自らを生かす中に自分なりの「生きがい」を体験の中から見出して欲しいと願っています。



▲身障者とゲートボールでふれあいの輪

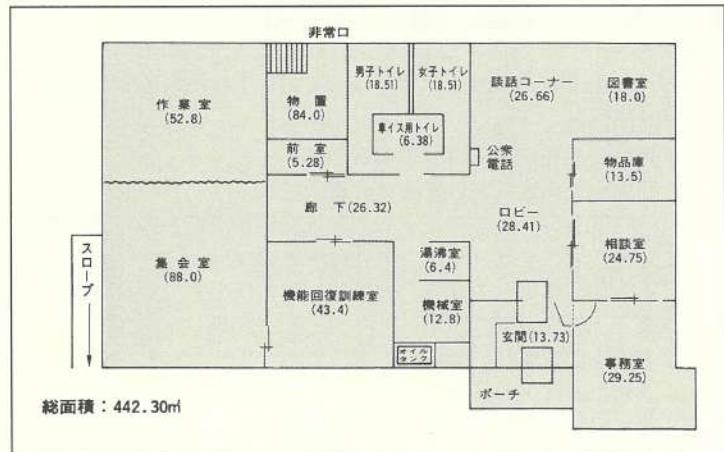
## 身障者福祉センターと社協

身障者福祉センターの前身となる建物は、このたび竣工したボランティアセンターのところにあります。それがより広い敷地を求めて面目一新、昭和五十八年酒田市身体障害者福祉センターとして独立建物の竣工をみたのです。

以来、その管理運営を社協で委託を受けていましたが、平成元年十月から酒田市身体障害者福祉協会の手に運営が移りました。

このセンターを拠点として渡部さんたちの青年部がボランティア活動をしているほか、ボランティアサークル「あらた」を初め、ほかの団体も活用しております。行事も多彩、地味ですが堅実な歩みを続けております。

▼身障者福祉センター平面図



## 第4部

# 草の根福祉への展望

## ボランティア・センターの完成



*heart and heart*

福祉の受け手は、以前のように社会的経済的に特殊な人たちではなくなってきました。いつでも、どこでも、だれもが必要なニーズを求めなければならぬ、また満たしてあげなければならない社会状況となっています。

住民に直接するということで、厚生省はその権限を地方自治体に委譲し、十カ年戦略と称するプランは二十一世紀に向けた地域福祉・在宅福祉の展開を期待しています。

法人化二十周年という社協にとって節目の年、今に至る社協の育ち方をおおよそ三つに区切ってふりかえってみたわけです。前記のような国であらたな発想を示した年にもあたりましたが、私たちもあらためて将来を展望してみたいと考えました。本年度からの取組みをのぞかせて、あえて第四部をおこした次第であります。

入所施設はまだまだ足りず、これから大きな課題であります。しかしながら、在宅福祉の行きつくところは、網の目をさらに細かくした、マンパワーによる草の根福祉の構築を待っているのだということがいえそうです。



## 自治会連合会の果たすもの



小嶋貞次

酒田市社会福祉協議会の法制化二〇周年、まことにおめでとうございます。

故・佐藤前会長、山岸現会長はじめ役員の皆さま方の献身、ご努力と、関係住民各位のご協力に対し、深甚の敬意を表します。

元来、自治会は「住みよい町づくり、相互の融和親睦」を主眼として結成された経緯からして、活動の内容もやはり住民福祉の問題が一番重要なこととして位置づけて参りました。

したがつて、連合会としてはそれぞれ地域の特殊性を生かした活動もさることながら、なお地域ごとの水準を保つことも必要だと存じ、学区長において内容をよく承知されるように努めているところです。

もちろん、法制化された社協活動の分野において目的達成に努力されることは当然でありますが、自治会自体の福祉活動分野により、広範に亘るものだけに、その実態把握のため、

- 1、高齢者対策
- 2、少年対策



▲平成元年4月28日 老人福祉センターに市内のライオンズクラブが共同してテレビを寄贈してくださいました。利用者の笑顔をパチリ。

### 3、交通問題

4、民生児童委員及びその他の団体との連絡協調

(プライバシーの問題は特に注意を要する)

等々について、それぞれ基礎資料の整備や適切な方法を講じているでしょうが、これを支えるものはあたたかい『思いやりの心』です。

縦社会の構造に慣れた国民の意識には、ともすれば軽く扱われやすかった横の連帯意識も、ようやくこれを重視する気運が芽生えてきた今日、『今日は人の身、明日はわが身』のことを考えたいものです。

(酒田市自治会連合会長)

### 行政、社協、民協が一体となつて



齊藤 知利

社会福祉協議会が地域福祉の推進をはかるには、なんと言つても現代社会の住民がどのような多様化されたニーズを持ってゐるのか把握して、地域課題としてとりあげ、対策を講じ、実

践することであると思います。

地域住民のニーズは、住民と直に接している民生委員が、常にその把握に努めているので、社協や行政のつかんでいるものとを相互連絡を密にし、情報提供をしあうことがきわめて大切です。

根幹となる三者のネットワークは勿論のこと、各種相談員、またボランティア団体、そして各自治会から隣組までその輪を広げなければなりません。

社会福祉協議会が法人化されて二十周年を経たと言つても、地域住民の中には、どこにあるのか、どのような仕事をしているところか知らなかつたり、社会福祉協議会と福祉事務所が同じものと思つてゐる方がまだいるのです。

私は、民生委員として住民から種々の相談を受けておりますが、問題によつて社会福祉協議会に行つて手続きするもの、あるいは福祉事務所に行くようアドバイスするものありとさまざまです。

そんなとき、両者を混同し、あり場所を知らなかつたりするので、もつと理解を深めてもらうためにPRしなければならないなど感じさせられております。

政府においても、県、市の行政においても、福祉政策を種々講じておりますが、なんと言つても社会福祉協議会は民間団体で住民と直結している強味を生かし、私共民生児童委員協議会としても全面のご協力を致す所存で、益々充実した地域福祉の担い手同志をつなげていきたいものだと考えます。

(酒田市民生児童委員協議会連合会会長・市社協副会長)

## 草の根福祉ネットワークづくり



高橋 重二郎

市社協が福祉法人として発足してから満二十年目の記念すべき年を迎え、これまでの諸先輩の苦労とご努力に対し、また、行政当局ならびに関係諸団体のご援助に深く敬意を表します。

市社協の事業は、地域福祉、在宅福祉及びボランティア活動の推進、家庭奉仕員や入浴車の派遣事業、施設の運営、資金貸付、各種相談事業等、市民生活そのものに直接触れるサービスであり、相互の信頼と継続性が求められています。

しかし、新しい福祉のあり方も問われています。特に最近は、急速に進む高齢化社会へ対応が社会問題となっています。高齢者の数が多いということは、豊かな知識経験を持つた人の多い社会であり、灰色のイメージで受けとめるべきではないのですが、その進行テンポが早いことと、社会構造や生活様式の変化等と相まって複合的に多くの課題が生じ、対応が求められてきています。心身共に健康で経済的にも安定した老後生活を望むことは当然ですが、残念ながら相当の方達が疾病を有し何らかの援護を必要とすることが現実であります。

このような状況の中で、これまで進めてきた各種の福祉推進



▲ 平成元年12月27日 松陵小学校児童会代表が村上幸太郎先生（右端）に引率され、歳末たすけたい募金を届けに社協へ。（ビデオを構えている生徒さんがいます。帰ってから年明けの全校放送で報告。感動を呼んだ由。）

事業の流れを受けて「草の根福祉ネットワーク」づくりが現在検討されていることは、福祉の質が問われる時だけに実現に向けて関係者のご協力ををお願いしたいものです。これからの福祉は、特別の人が特別の人のためにやるのではなく、市民みんなが、困っている人がいたら助け合うという市民意識を高めることが大切であり、市社協にはそのため総合調整機能が期待されるところであります。今後より一層の体制充実のために市民のご支援をお願いします。

(元市福祉事務所長・市社協副会長)

### 地区社協をめざした福祉のまちづくり推進事業



舟  
越  
慎  
吉

昭和六十年度から市社協補助事業として『福祉のまちづくり育成事業』として酒田市全学区が六年間の指定を受け、事業を実施した。多様な福祉活動は各学区それぞれの特色はあるが、広報活動や老人給食等に力点をおいたことは共通した内容であり、六年間の事業終了と共にその成果が問われようとしている。その評価は議論の要するところではあるが、地域的には福祉の風土づくりの傾向や福祉問題に積極的に取り組もうとする意識や態度化が、今までとは違つて醸成されてきたのではないかと考えられる。このことは今後地区社協体制づくりに当つて大

きな原動力になるのではないかと思う。

とは言つても、各学区には福祉活動に対する意識の高低、指導者や福祉活動を直接担う人材不足、組織体制や事務局体制、補助金依存で自主財源造成への取り組みの不充分、活動の拠点となる館がない等、いくつかの問題点のあることも認めざるを得ません。今後の課題といえましょう。

高齢化社会の一層進む現今、「一人の不幸も見逃さない」という命題のもとに、酒田十万都市に相応しい福祉行政と共に『草の根福祉ネットワーク』の構築の必要性が急務となってきた。民間福祉推進者である地区社協組織体制整備に向けて、福祉のまちづくり推進事業は六年間の実績をふまえて今新たな段階に入つたといえるのである。

福祉問題を抱えている人たちへ、地域住民の積極的なあたたかい手をさしのべる地区社協であつて欲しいと願いつつ。

(市社協役員・同福祉活動部会長)

### 社協の未来に期待するもの



庄  
藤  
勝  
一

酒田市が社会福祉協議会に委託している業務は、家庭奉仕員、入浴車の派遣をはじめ、福祉バス、デイ・サービス等、金額に



▲ 昭和62年10月27日 全国ボランティア事業推進会議に田村玉隆業務次長出席。  
(於、東京霞が関、全国社会福祉協議会)

して委託料約六千万円、補助金を合わせて約一億円です。更に市社協にご期待申し上げたいのは、この度、法の改正によつて市町村社協は「社会福祉を目的とする事業を企画し、実施しなければならない」ことになつたからであります。

喜ぶべき長寿社会になりましたが、その裏には一人暮らしや老夫婦の虚弱者、寝たきりの方が増え、一方、核家族の進行、女性の社会進出、近隣関係の希薄化によつて扶養能力が著しく低下しております。高齢者は「住み慣れた家でふつうの暮らしをしたい」と望んでいることから、地域住民みんなでケアをしなければならないと思ひます。

市社会福祉協議会は、「ボランティア事業」の中で地域福祉、在宅福祉に着目し、ボランティア連協と福祉のまち連協を組織され、福祉の網の目を細かくしよう、と提唱されました。現在は、「草の根福祉ネットワークづくり」を検討されておられますので、大いにご期待申し上げているところです。

在宅福祉については、民生委員をはじめ老人相談員・保健婦・家庭奉仕員・ボランティア等が、それぞれの立場で指導、援助、介護をされておりますが、それらの連携と、自治会・近隣者との連携をもつと深める仕組みが必要ではないか、と思われますし、「プラン80」で話しあわれた要援護者のニーズの吸い上げをする人も必要ではないかといった問題があります。福祉の網の目を細かく、丈夫なものにしたいと期待します。

(酒田市福祉事務所福祉課長)

## ふれあいホームサービスクラブ



▲ ふれあいホームサービスクラブの総会ならびに発会式



木村秀子

『ふれあいホームサービスクラブ』は、酒田市消費者団体連絡協議会（酒田市連合婦人会・母子寡婦福祉会・中央生活学校・消費者モニターの会）の四団体が中心となって、平成元年四月、約二年の準備期間を経て発足した有償ボランティアです。私共のまわりにも高齢化が進み、介護を必要とする方が実際にふえています。このような現象は子供がいるとか、いないとかには関係ないのです。

十月十五日現在の会員数は、

利用会員	二〇一名
協力会員	九四名
賛助会員	二十四名
合計	三一九名です。

『会員制ふれあいホームサービスクラブ』制度とは、安い料金でお年寄りや御家族の方々が、日常生活でおこまりの時、地域の人々の中から参加した「協力会員」がサービスを提供し、手助けするものです。お年寄りやご家族の方々が住み慣れた街で、住み慣れた家で、家族や心の通う人々の中で、明るく楽しく暮らせるような、助け合いと思いやりの街をつくることを目的としています。発足にあたっては、すでに実行している東京都の世田谷区、北区、武蔵野市、八王子市等の資料を取りよせ

て検討を重ね、又盛岡市と横手市で私共と近い事業をやつていると言うことで、視察にも行つて来ました。大変参考になりました。

「協力会員」は主婦の方が主ですが、皆さん的心の優しさと暖かさに利用会員の方々から大変感謝されております。

今後ますます高齢化が進み、在宅介護の要望が多くなるものと思われます。

#### 活動内容

平成二年一月～九月まで（一六九五回の内訳）

- 食事の世話 四六八回
- 掃除整頓 二三七回
- 買物 一二回
- 話相手 六二回
- 外仕事 一回
- 洗濯 七三六回
- 身の回りの世話 三八回
- 通院等の付添い 三回
- 代筆朗読 一二〇回
- その他 一二〇回

#### 月別の活動回数

- 一月 一六五回
- 二月 一二〇回
- 三月 一二四回
- 四月 一〇五回
- 五月 一七三回
- 六月 一五九回
- 七月 一六一回
- 八月 一九三回
- 九月 一二六回

#### 今年のあゆみ

1 / 22 高齢者的心と体の介護

1 / 30 八幡町民生委員婦人部研修視察

2 / 24 協力会員懇談会

4 / 19 平成二年度ふれあいホームサービスクラブ総会

5 / 14 老人介護の講習

7 / 24 老人向け料理講習

9 / 11 柴田町商工婦人部視察団との懇談会

9 / 13 痴呆性老人の理解と接し方他

#### ■会員の声（協力会員）

二人暮らし（老夫婦）、病人、体の不自由な方など、いろいろの家庭がありますが、自分が利用する立場に立った場合の参考になります。各家庭に伺つて教えられる事が多く、勉強になります。相手の家庭に深入りしないようにそれぞれの家庭のプライバシーを守るように常々考えて活動しています。

#### ■会員の声（利用会員）

突然父が病気で身体の自由がきかなくなり九ヶ月になりました。家業をやりながら父の世話は大変で、親戚の助けも限界があり、いろいろ困つていた時「ふれあいホームサービスクラブ」の活動を紹介されました。おかげ様でギリギリながらも家業を続けております。相互扶助の精神のおかげで暮らししが成り立ち本当にありがたいと思っています。

協力会員が、利用会員に手伝いに行つた場合は一時間四〇〇円の謝礼を受けます。其の他距離によつて交通費を申し受けることがあります。会員の申し込みは、利用会員会費千円、協力会員会費十三百円（三百円は保険料）、賛助会員はこの会の制度に賛同され寄附をされた方。

（市連合婦人会副会長・ふれあいホームサービスクラブ常任理事）

## 在宅介護の支援のために



久米井 重

介護される立場になった時も、みんなが暖かい介護を受けられる社会でありたい。こんなことを願いながら家庭奉仕員（ホームヘルパー）をやつております。

人の長い一生の幸せを考えた場合、最後の部分がしっかりと幸せでなければいけないと思います。以前、ヘルパーの派遣対象世帯は一人暮し老人が主になっていました。体が弱くなつて、寝つくようになりますと、在宅での生活は不可能になりますので、入院するとか施設に入るとかしますので、ヘルパーの仕事はねたきり老人は扱わない軽介護だけでした。今、超高齢化社会になりねたきり老人や、痴呆性老人が増え在宅での介護に昼夜苦労している人が多くなり、これらの人達への支援を強化していくしかなければならない時代になりました。酒田市には十七名のヘルパーがいて、介護の体制を整えて活躍しています。

近年は重介護を要する人が増えてきました。九十三才のねたきりのおじいさんを八十九才のおばあさんが介護している世帯とか、九十才を過ぎて玄関の中から鍵をかけて戸じまりしたまではよかつたのですが開けるのがわからなくなり、家から出ら

れなくなった一人暮しのおばあさんや、近所にお金を盗ったと疑いをかけトラブルを起こしている等、色々のケースがあります。

ヘルパー制度にしても他人を家庭に入れるのを嫌うというのではなく、利用して複数で介護し、お年寄が住み慣れた家で心の安らぎも持ちながら生活出来るようにみんなで支援して行かなければならぬと思っています。  
（市社協主任家庭奉仕員）



後藤 牧子

「ああ、おいしい!!」

弱々しいが本当に心からおいしそうな声。

この声を聞く毎に、自分が絶食の空腹時においしい馳走を食べたような気持ちになりホッとする。

ヘルパーの訪問日は、朝から何も食べず空腹のまま待つている。ごみ出しも自分で出せず、隣のお嬢さんに出してくださいているのです。隣人、民生委員、その他色々の人々に援助されて生活している。夢も希望もなく、常識ではとても考えられない生活なのです。

AさんはAさんの過去があるでしょう。現在に至るまでの問題点も数多くあつたでしょう。施設に入所もせず、今年の冬は入院しないでがんばっていると嬉しそうに話すのです。一人では暮らせないのに、どんな状態になつたら、自分の限度を知

るのでしょうか。でも彼女は生きている!!

病気の治療をするのが医療であり、家庭という温室を失った老人の病を治療するのがヘルパーの役目ではないかと思うようになりました。

自分の仕事に誇りを持つことが今の私の最大の目標です。

ヘルパーが帰った後、毎日一人で食事をし、淋しくて何も欲しくない、温かい家庭が欲しいと泣く日もあるでしょう。せめて帰る言葉に「サヨナラ」ではなく「また来ます」「またね」の言葉に心残して帰つてきたい。

長生きできて、良かつたとは思わないかも知れません。しかし明日になればヘルパーが来てくれる、と心待ちにしている老人へ少しでも力となり希望となれるヘルパーになりたい。

看護婦になる時、白衣に憧れ看護に誇りを持ったように、自己満足でもいい、自分の仕事に誇りを持って働きたい。

(市社協家庭奉仕員)

## ■年度別ヘルパー人員と訪問のべ件数調べ

年 度	ヘルパー人員	の べ 件 数
昭和46	7	(人) (件)
47	8	5,849
48	8	5,124
49	8	2,947
50	8	5,536
51	8	5,365
52	8	2,984
53	8	2,878
54	10	3,250
55	10	2,992
56	10	2,870
57	10	3,402
58	10	3,421
59	10	3,159
60	10	2,932
61	12	3,061
62	12	3,273
63	12	4,081
平成元	13	4,160
計		36,348

▼山形新聞に紹介された久米井さん  
平成2年2月6日号

## 助け合って共に生きる

### 完べきな「自助」努力

「心のきれいな障害者」といふ言葉は、静かな街並みにある小さな児童館や、自立支援施設など、社会的・経済的な立場に劣る人々に対する心の支えとなるべきものだ。しかし、この言葉は、必ずしも、社会的・経済的な立場に劣る人々に対する心の支えとなるべきものだ。

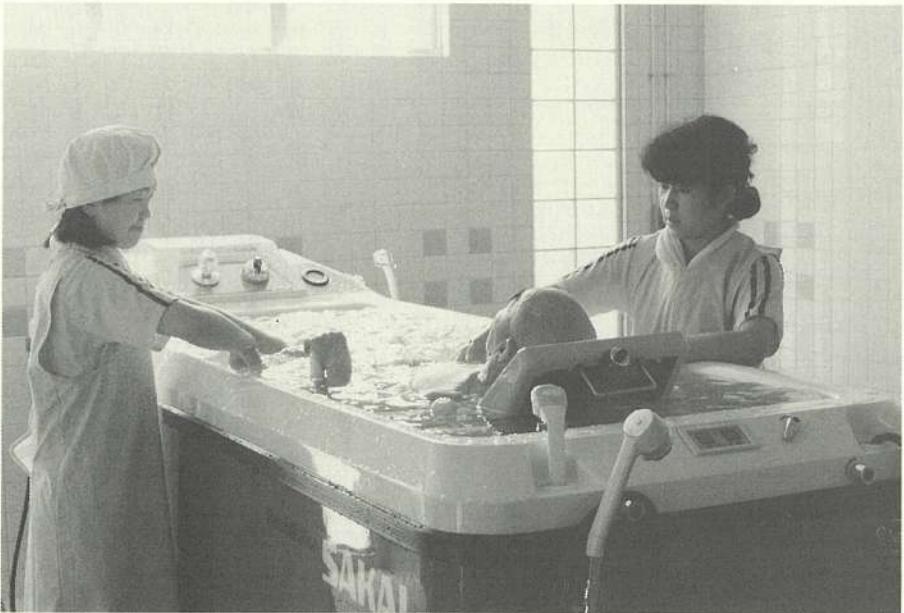


ほのぼの日記 県立看護専門学校久米井重

看護専門学校久米井重  
久米井重は、看護専門学校として、看護師の育成を行っている。看護師の養成は、看護師の資格を有する者によるものである。

看護専門学校久米井重は、看護師の資格を有する者によるものである。

## デイ・サービスセンター・いづみ



▲入浴サービス



足 遠 智 美  
とも  
お (智勇)

法人化20周年の記念の年に市を初め関係各位の御努力により当地域初の施設として、4月24日開所から、6カ月目を迎えた。当時を振り返ってみると開所までは、毎日が不安の連続で、開所後も迎えの時間が遅いとか、行つてみれば留守で予定の半数だけとか色々ありました。実際に皆さんに接し、帰宅時に「今日はイガッタ、またクッサゲ」といわれて半信半疑で一巡し、二巡目に笑顔で「またキタゾ」といわれ安堵した事を思い出します。

利用される方々も千差万別で、地域の行事よりセンターが良いとか、風邪気味だが皆と一緒にの方が治る、通院日だが血圧も測つてもらえるので来た、また少々の事では休まないから皆勤賞をくれ等。

また、家族から利用日が近づくと童謡を口ずさむようになつた、外出嫌いが散歩するようになった、熱っぽいが、聞かないでの下熱剤を飲ませてやりました等の連絡があつて驚いたり、考えさせられたりしました。

何が良いのか聞いたところ、「一人の食事より大勢の方がうまい。食事が軟かい」「風呂が広く泡が出て気持ちが良い」「みんなが大事してくれる」「何年も見なかつた外の景色が見られる」「何よりもここではみんなといっただけで楽しみだ」等色々で、

## ■ デイ・サービスセンターいづみ 平面図



小学校以来七十年振りの再会で午睡もせず昔話に夢中、身体の不自由な引込思案の人に歌を進めたところ、マイクを離さず次回から皆に溶け込んだり、歩行練習に励んだり、体操を催促させたり、我々には些細な事が良くも悪くもなる事を教えられ、改めて反省しております。

ある利用者から「『ふれあい』の書を眺めやつとふれあいの大切さが判りました。ありがとうございます」といわれ、一層努力しなければと思っております。今後とも皆様の温かい御指導と御協力をお願いいたします。（市社協デイサービスセンター「いづみ」所長）



▲ デイ・サービスセンターの多目的ホール

天井が高く、採光を考えた広びろとしたホールです。回りの休養室から出てきて、軽スポーツを楽しんだり、機能回復訓練などの指導を受けたりすることができます。

## 社協四部会制と 事務局体制

### 2 福祉教育広報部会

部会長 土岐 千也恵  
副会長 伊勢 中三 部員8名

#### ●福祉教育研修、広報、宣伝及び普及に関する事項。

- ①広報啓発活動の充実。(ふれあい広報等も含めて検討)
- ②在宅福祉活動のための各種研修会への協力取材。
- ③福祉教育の推進と、福祉協力校同士の交流。

### 3 福祉活動部会

部会長 舟越 慎吉  
副会長 佐藤 悅雄 部員13名

#### ●福祉のまちづくり、福祉ボランティア活動、及び福祉ネットワークづくりに関する事項。

- ①住民参加の福祉活動を推進し、地区社協の組織強化を図り、福祉ネットワークの構築の実現。
- ②ボランティア活動の推進と福祉団体の連携、強化を図り、情報収集と提供を深める。
- ③地区社協代表者及び自治会長、部落会長の研修会の実施。
- ④相談事業のPRと専門機関及び関係団体との連携を深めて、機能の一層の向上を図る。(心配ごと相談、健康相談等)
- ⑤資金の貸付業務のPRに努め、適切な運営と積極的な利用を図る。(生活福祉資金、たすけあい資金、老人生きがい対策資金等)

### 4 共同募金部会

部会長 金野 耕伍  
副会長 三上 礼子 部員13名

#### ●赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金及び災害たすけあい義援金に関する事項。

- ①赤い羽根及び歳末たすけあい、災害たすけあい義援募金等の実施計画の検討。  
ア、県共募からの増額要請  
イ、ボランティアの積極的な参加
- ②広報活動の強化



協議会では、平成2年度からこれまで部会設置の条文はありましたが、ますます多様化、高度化する福祉のニーズに対応する執行体制の充実と効率的な運営を図るために、部会規程を制定しました。

部会は、理事会及び評議員会で決定された事項の専門的事項について、この運営に参画し、或いは会長の諮問に応え、又は意見を具申することになっています。

平成2年度の具体的な検討事項は、以下に示すとおりです。

#### 社協事務局長

阿部 太

### 1 企画財政部会

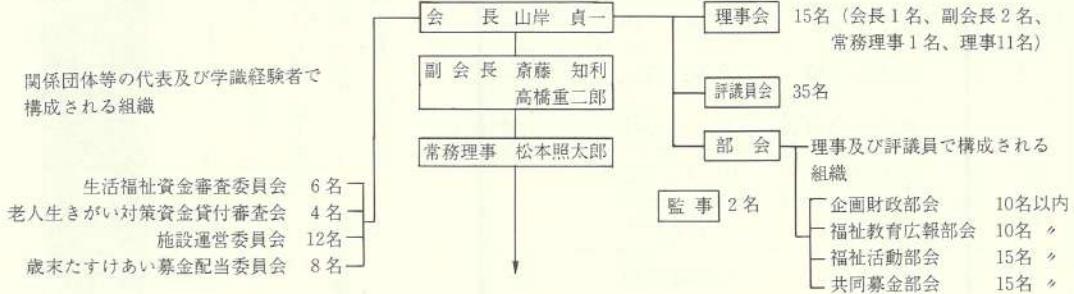
部会長 佐藤 吉雄  
副会長 佐藤 一二也 部員8名

#### ●総合企画、予算及び決算に関する事項。

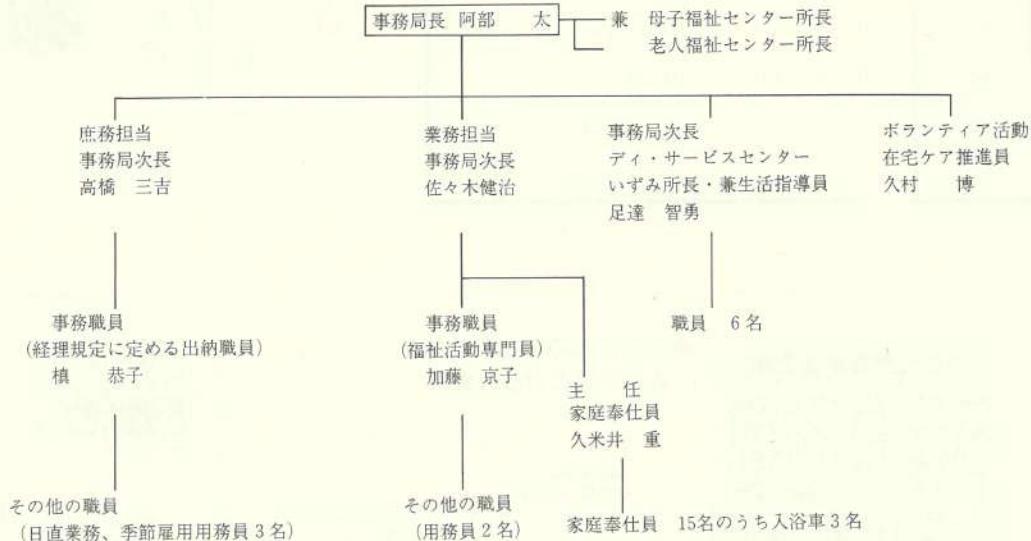
平成2年度の実施内容及び検討課題

- ①福祉実践活動補助金及び助成金について
- ②社会福祉基金の運用について
- ③社会福祉法人化20周年記念事業の実施
- ④委託事業(ディ・サービスセンターいづみ)の実施と、家庭奉仕員派遣事業等、及び入浴車派遣事業の見直し。
- ⑤老人福祉センター増改築に伴う関係団体の施設利用と、総合福祉ゾーンの整備計画の策定。
- ⑥福祉協議会の執行体制の充実(事務改善、OA化等の見直し)

## 平成2年度 社会福祉協議会組織図



### 職員の配置



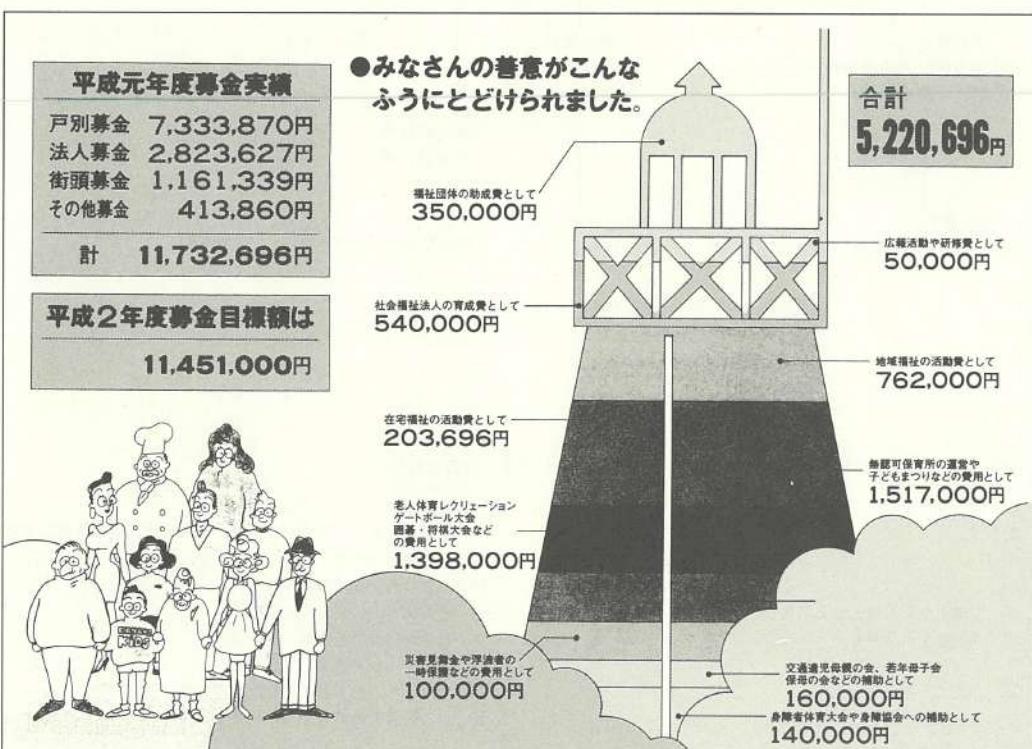
◎社会福祉協議会が目的を達成するために行う事業の主なものは、次のとおりです。

- |                            |                                 |
|----------------------------|---------------------------------|
| (1) 社会福祉を目的とする事業に関する調査及び研究 | (10) 母子福祉センターの設置経営              |
| (2) タ 総合的企画                | (11) 在宅老人ディ・サービスセンターの設置、事業の受託運営 |
| (3) タ 連絡・調整及び助成            | (12) ボランティアセンターの設置運営            |
| (4) タ 普及及び宣伝               | (13) たすけあい資金の貸付事業               |
| (5) 保健衛生を目的とする事業との連絡       | (14) 老人生きがい資金の貸付事業              |
| (6) 共同募金への協力               | (15) 家庭奉仕員派遣事業の受託運営             |
| (7) ボランティア活動の振興            | (16) 入浴サービス事業の受託運営              |
| (8) 心配ごと相談所の運営             | (17) 福祉バス、日赤バスの受託管理運営           |
| (9) 老人福祉センターの設置経営          | (18) その他目的達成のための必要な事業           |

## ■共同募金実績状況

年 度	目 標 額	実 績 額	一 世 帯
昭和53	5,500,000	6,360,433	150
54	8,355,000	8,950,514	〃
55	8,500,000	9,358,601	250
56	9,850,000	10,463,505	〃
57	9,850,000	10,388,238	〃
58	10,060,000	10,562,742	〃
59	10,060,000	10,531,574	〃
60	10,245,000	10,326,118	〃
61	10,441,000	10,811,075	〃
62	10,441,000	10,206,559	〃
63	10,848,000	11,002,745	300
平成元	11,391,000	11,732,696	310

平成二年十月末の共同募金部会の報告によると、街頭募金には50ちょうどどの団体の協力があり、法人募金については民児協と自治連との連携プレーによる企業訪問（まえもつて趣意書）で実績をあげたいとの提案が出てい



# 歴代事務局長に聞く

■ 平成 2 年 10 月 5 日(金)

母子福祉センター 2 F 会議室

## ■ ご出席者 (順不同・敬称略)



司会・社協常務理事  
松本 照太郎



社協会長  
山岸 貞一



■ 上段左から／社協事務局長・阿部太／2代目局長・加藤多之吉／福祉活動部会長・舟越慎吉

■ 中段／3代目局長・佐藤 弘／6代目局長・佐藤啓治／福祉課長・佐藤勝一

■ 下段／4代目局長・菅原良治／7代目局長・尾形正三／教育広報部長・土岐千也重



## 酒田に母子福祉センター…… そんな小さなもの建てて何するんです？

歴代事務局長が今語る

# 社協20年のエピソード

山岸 みなさん、苦労さまです。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。さて、酒田市社会福祉協議会（以下「社協」）が社会福祉法人として法人格を取得して、ことは二十周年になります。昭和四十五年七月十五日の設立でした。この記念に「二十年のあゆみ」をまとめるなどを、行政や、役員会に認めいただきました。今までの節目の年に足あととして残されたものがなかったので、ぜひこれを機会に二十年史を

編んでおいて、今後の刊行の基礎となるものを整備できればと考えました。そのため、一つは史料性を重んじ、二つに見やすく読んでもらって社協をもっと理解してほしいということをねらいます。そんなことで、今まで直接社協を育ててこられた歴代の事務局長さんにお集まりをいただき、いろいろな回顧をお聞きできることを楽しみにしておりました。初代の市川さんがお体の具合で出席いただけなかつたこと、本間寿三さんがなくなられてここに並んでいただけないことは残念でなりません。社協の任務も高齢化に対応するため、関係法律改正などで一つの転機に立っております。いろいろご指導を賜わり、今後飛躍のための展望にしたいと思います。司会は常務理事の松本福祉事務所長にお願いしました。なにぶんよろしく。

松本 なつかしい大先輩の局長さんがおいでになつております。いろんな思い出に残る苦労話、おもしろいお話を聞かせていただきたいと思います。会長のお話のように社協もハタチになつた年、在宅福祉を実践する機関として法律により強い位置づけがなされています。これから草の根福祉ということでもんばつていく私たちに、示唆を与えていただければありがたいのです。今年度から部会制をしき、正副部会長も出席しておりますので、ご質問や意見交換ができたらと思います。最初に局長さん方から回顧を、次に社協の現状と民間福祉のあり方など会長や事務局長から、そして福祉課長が出席していますので、行政から伝えるものをお話し願い、後半は折りませていきます。市川局長は設立された年の十二月から四年と少し、その間は老人福祉と母子福祉の画期的な拠点づくりの時期でした。山岸会

長の方で若干聞いているようで、どうぞ。

山岸 事務局職員の加藤京子さんによると、本人は昭和四十年から社協の仕事ということで市福祉事務所に勤務（市職員ではない）、社協業務はこここの社会係が担当していました。係長は渡部春一（会計担当）、池田順太（心配ごと・共募関係）、松村（軍人恩給）、佐藤澄枝（引揚者）、後藤伊三身（世帯更生資金）、加藤京子（たすけあい金庫）のみなさんで分担していた。市川さんは老人センターが開所されると、所長兼社協事務局長（会計を含む）で、新しく木村（楨）恭子事務員・佐藤佐太郎（ボイラー・用務員）・鹿野三知（管理人・現在は社協ヘルパー）の四名で発足、学童保育とか長時間保育の臨時の方も社協職員に位置づけられていたよう。四十九年八月六日、母子センターの竣工式をもって名実ともに社協事務局を構える。局長は両施設のセンター長を兼務、佐藤真吾（会計）、斎藤邦子（技能教室）、黒石、五十嵐、加藤が加わり、さらに以前からのヘルパーに開所時採用で計八名の奉仕員の陣容となる。梁瀬さんもボイラーで入って、その後九年間勤めてくれました。楨さんはそのまま老人センターの担当を続けたということです。

松本 市川さんがお出でなら社協創設期のことをお聞きできただのに残念です。しかし、流れとしては両センターができたところで二代目の加藤さんからお願ひします。

加藤 市川さんからの申し送りに、老人センターの内部の部屋割、つまり相談室、図書室その他細かい部屋がたくさんあつたが、こんな細かくして使い道にならないのではないかと、厚生省あたりからの指導があつたのでしよう、今年あたりは直して

もよい時期だという申し送りがありました。この模様替えの予算、設計など市に交渉して建築課から設計監理をやってもらい改造ができました。ここに来たとき驚いたことに、女の職員ばかりで男が一人もいない。非常に困つて再三市にかけあい、やつと市から男性一名来てもらいました。この辺、夜になると無断駐車がいっぱい、老人にけがでもあつたらと歩道に杭を立て、ロープなど張つた。電柱に車をぶつけ水銀灯は折られる、幸い相手がわかつっていたので弁償ということになり、月給から少しずつ返すのでなかなか時間がかかりました。老人センターは土地の面積が許したら、

二階ではなく鶴岡のようにしたいものですね。会長さんのいわれるよう記録がないということでは、記憶をたどるにしてもおぼつかなく、ある区切りの時期にきちんと資料を整理して残しておきたいものです。

松本 はい、どうも。次に佐藤さんは五十一年五月から五十二年いっぱいといふことです。が、とくに大火をくぐられたことではたいへんなご苦労があつたことでしょう。



佐藤弘 ここに来る前は市民部長でしたので、母子センター建築は私の主管でした。当時福祉事務所長は斎藤専一さんで、

老人センターの方は自転車振興会、母子センターの方は船舶振興会からの補助金をもらつた。母子センターを建てるとき、婦人会がたいへん熱心で池田正之輔さんが来酒の折、菊水ホテルまで阿部政井会長が待機してて陳情した。池正さんから「こんな建物何するんだ」という調子でした。しかし、結局は池正さんOK、笹川良一さんに池正さんは話しかけてくれていた。

四十八年十月ころか、陳情書を持って笹川事務所へ行つたところ、専務理事という人が「酒田市で母子センター?こんな小さなもの建てて何するんです」といわれ、斎藤専一福祉事務所長すかさず「私の方には母子家庭が50~60世帯あります。ぜひ母子センターを建てていろいろ生業指導をしなければならないので、なんとか助成していただきたい」と陳情した。そうしたところ、最後に専務理事が「相馬さんのところだもの、私は相馬さんと秘書仲間だったですよ」と言い、それでだいたいOKでした。頭を下げるとき「相馬さんによろしく」といわれ、これはまちがいないと、帰るや市長さんに早速報告、そういうことで補助金が決まつたという経過がござります。

次に当時の社協会長は市長だった。それに副会長助役とかは公職追放みたいに「長」はだめとなつたわけです。それで、民間人となつた。市長さんが来られないと、土田久太郎さんが議長席に座つてやっていました。そこで、市長さんから頼まれたものです。「おれが社協会長やれなくなつたので、民間に頼まねばならない。土田久太郎さんとは公害審議会等でつきあつて

きたので、土田さんの気持ちもお互いよくわかっているつもりだから、ここはひとつ社協会長を佐藤斎さんにしたいので、土田久太郎さんと二人で相談してこい」となつたわけです。

土田さんと佐藤斎さんは、ほんとうの友達でした。土田さんは市会議員をしていたこともあって、議会の内部で少し抵抗があつたらしい。まず、土田さんに「佐藤斎さんにお願いしたいのですが、土田さん了承してくれますか」と、沈黙二三分あつたが「斎さんはよいではないか」と。實際には斎さんは会議に出てこず、実質的には土田さんが運営していた。

大火復興ですが、五月一日が当時の市役所の人事異動、大火は十月二十九日、社協内部の仕事は引継帳簿を見ながらやつたが、とにかく大火だ、義援金はくる、物資はくる。学校に仮設住宅を構えたわけだ。当時の桜井総務部長に、いろいろ罹災都市を視察して考えたところは、仮設住宅から出られない人に金を貸そう、まず五〇世帯はみなければならない。世帯当たりを二百万円無利子で貸して一億円になると持ちだす。市当局は一億円はよいが、義援金だから罹災自治会の了解を得なければならぬとなつた。そちらの復興自治会協議会にはかつたところ「よかろう」ということで、だれからも文句は出なかつた。平らに物資を分けるようにやれば、一世代帯たり二~三万円がせいぜいかと思つていたので……。

菅原 復興の貸付資金の話ですが、返済がうまくいかないということ、十年間の返済期間が終つた後、この金をどうするのかという心配はしていました。「おれ、もらつたつもりだ」という人もおりました。当時の総務部長に「返済が済んだら福祉

基金に繰り入れるべきではないか」と話したところ、「よからう、社協の福祉基金に繰り入れする」と約束していただいたものです。それは市長までいっただかわからないが、約束した経緯はあつたのです。基金がないと市からの補助金や人件費の関係だけでは賄いきれないという考え方から、指定寄付金以外は全部、市民の善意は福祉基金に繰り入れしてきました。

まだあの当時65才以上は、酒田市8%ぐらいの気がするけど、今15%近く倍になりましたね。高齢化社会が進み始めて公的福祉から民間福祉へ移行する過渡期のようで、県社協が盛んにネットワークづくりを提唱していました。入浴車の運行も始まって好評を呼び、回り切れないほどでした。寝つきり老人も増えヘルパーも増やした、50年代初期は高齢化社会に向かって着々準備しつつある時代でしたね。

松本 五代目の局長はなくなられましたが、五十四年ごろから市でも障害者社会福祉推進事業を初めとして老人のための明るいまちづくり推進事業の三年め終了年度でした。この事業の中から老人たちの強い要望、老人福祉施設として付設作業所をぜひとと出されました。

五十九年度は地域福祉活動推進がメインの空気になり、六十年度は市単独事業の委託を受け、社協が福祉のまち育成推進事業をやり、地域の連帯意識の醸成ということで住民参加を呼びかけ、指定の地域を活動推進のため夜間も回った覚えがあります。

五十九年十一月一日、優良社会福祉団体として全国社会福祉協議会会長表彰をいただきました。その受領は山岸理事に日比谷公会堂まで行ってもらいました。これは諸先輩のご努力の賜物として、よもや全国表彰なんて夢にも思わなかつたのですが、

局長になられて六十年ころから福祉のまち育成推進事業が始まっています。老人福祉センター付設作業所が開所したようでもあります。

山岸 私、五十四年からの評議員ですが、菅原さんのお話の

ように県社協が機会をとらえてはネットワークづくりというもので、本間さんは「もっと民生委員と自治会長が結びついてもらいたい。学区単位で両者の話しあいがもたれるときは、一回についてお茶菓子代二万円を年二回まで社協から出すつもり」との強い呼びかけをしました。琢成学区では私がすぐに取り入れて今に続いております。それから、社協役員は広い視野に立て研修してほしいと県社協・渡部剛士事務局長を招いたり、意

図的に研修を促し、勉強させてくれましたですね。

松本 それでは佐藤啓治さんから、ボランティア事業を含めてコメントいただきましょう。

佐藤啓治 本間局長の後を継いだのはその年度の中ごろです。

市制施行50周年の年で、老人のための明るいまちづくり推進事業の三年め終了年度でした。この事業の中から老人たちの強い要望、老人福祉施設として付設作業所をぜひとと出されました。五十九年度は地域福祉活動推進がメインの空気になり、六十年度は市単独事業の委託を受け、社協が福祉のまち育成推進事業をやり、地域の連帯意識の醸成ということで住民参加を呼びかけ、指定の地域を活動推進のため夜間も回った覚えがあります。

五十九年十一月一日、優良社会福祉団体として全国社会福祉協議会会長表彰をいただきました。その受領は山岸理事に日比谷公会堂まで行ってもらいました。これは諸先輩のご努力の賜物として、よもや全国表彰なんて夢にも思わなかつたのですが、



歴代事務局長が語る裏話にときには思わず笑みがこぼれる場面も……。

一語も聞きもらさずまいとメモをとる出席者の皆さん。記録は高橋事務次長(右端)。



それを契機としていろいろ事業が展開したなどという覚えが……。

六十年に付設作業所をオープンしましたが、この建設資金の一部を中央競馬社会福祉財団から仰ぐということで上京しました。財団では付設作業所なんて名前は聞いたことがない、担当者に検討させておくから帰つてくれという話、幸い老人福祉センターの規程を持参していたので、この通り厚生省で認められているし、なんとかと食い下がつた。係に厚生省に電話するよう指示していた声が聞こえてきたが、財団もその程度の認識なので、この面での助成は全国で初めてなことと思いました。総工費四七〇〇万円でした。この作業所の実質利用が問題です。

結局、調理実習室を設けたことで、老人給食に大きな道を開くことになり、在宅福祉に役立ち大繁昌したのが他のワーカルーム機能に先んじて成功しました。

六十一年も十一月に入つてからボランティア事業の指定で、なんでも英語らしく造つて叱られたものでした。ノーマライゼーションという言葉も使われ始めて盛んになりました。

松本 尾形さんは、今年三月まで勤めておりましたから、回顧というより鮮明な記憶がおありでしよう。

尾形 佐藤局長からボランティアを引継ぎましたが、名前さえわからず、どうしてよいのか、とにかく社協役員や推協の委員に教えていただき事業は締めくりました。その関連でボランティア連絡協議会が発足、その広報も発行することになり、さらに松原小独立によつて全23小学校区に福祉のまち推進協（地区社協）ができ、その連絡協議会が佐藤吉雄会長、前者は佐藤悦雄会長で基盤づくりはお陰さまでできました。これで福

祉大会を福祉まつりとあわせて挙行できる態勢になりました。

第八回は、保育園児の演芸参加等幅広く福祉団体主体の大會から市民参加を大きく取入れる方向転換をしていました。

六十二年度、初めての福祉協力校の指定、市教委推薦で小高一校ずつ二年間、県指定も小中二校三年間で始まりました。この年から戦没者慰靈祭が社協主催に変わりました。

六十三年度は定款の一部変更や諸規定の整備（準則変更）など、また老人給食のための調理実習を四回実施しています。この年は、歳末たすけあい募金の配分委員会を創設、部外からの学識経験者を含めてガラス張りにしたわけです。入浴サービスを一日三回に増やしました。

平成元年度はボランティア指導員、コーディネーターを市の援助で配置される。ディ・サービスセンターのための着工もあり、部会制導入の専門部会規定を作りました。酒田市と鶴岡市の交流囲碁将棋大会が十周年に当たり、鶴岡会場で行われ二つとも酒田が勝ち、永久獲得のカップをいただきました。委託事業ではヘルパーを増員、遠隔の寝たきりに出向くので、市の補助金で軽自動車を購入、懸案の福祉バスの更新がかないました。身障センターの管理運営は十月から社協を離れ、身体障害者福祉協会に受託が移りました。

松本 二十年間を大急ぎで回りましたが、現阿部局長どうぞ。阿部 先ほどの福祉基金は一億五千万円を超えていました。利子をどう活用していくか、企画財政部会に検討してもらっています。私見としては多くの篤志家の意志を尊重して、一過性のものではなく継続性のあるものにと考えますが、福祉八法が改

正され、社協も事業主体という一項目が入りました。衣替えは同時になかみも伴うことで、社協経営のあり方が問われる時代、事業運営のあり方、経営の展望方検討をお願いしております。

松本 部長さん方、聞き役ばかりでしたが、ご発言をどうぞ。

佐藤一二也 福祉基金は二億円をめざしていますが、この際賛助会員制を検討してはどうか。本間局長の残した事業で介護者激励会があり、忘れてはならない。非常に喜ばれています。

土岐千也重 広報紙の発行回数を増やし、部会活動の内容など多く取り入れ、市民に報告しなければと考えております。

舟越 私から二つ。一つは福祉のまち事業の補助金が切れますが、活動内容が学区によりバラツキがあり、一定の水準まではと格差を埋める努力をしております。この事業を通して福祉の思想普及や知識理解は確実に一般住民の間に定着しようという方向に向かい、補助金の問題は今後考えていきたいということ。二つめは、ふれあい広報に山岸会長が草の根福祉で書いておりますが、自治会(隣組)までのネットワークの網の目を細かくし、ニーズの吸い上げポンプの機能をはたしたいということ。私の印象を申せば、各局長の努力がみごとに継承され、酒田の福祉の花が開き始めようとしている、これからが問題ですね。

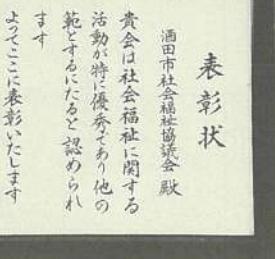
松本 行政の立場から福祉課長どうぞ。

佐藤勝一 福祉課にかかる予算は22億、その中で生活保護7億、施設措置費10億、従つて実際の福祉政策に基づくものは5億で、その中の約1億を社協にお願いしております。人件費、運営費、修繕費で約四千万、委託費が六千万円です。役員のみ

なさんから酒田らしい新しい福祉をということでがんばっています。市町村社協の名前でディ・サービスセンターを運営しているなど、法律より先んじて全国でも珍しいケースでしょう。役員のみなさんのご苦労をお察しし、私どもは社協活動がしやすいようにお手伝いしてまいりたいと考えております。

松本 舟越福祉活動部会長さんが、草の根福祉に向かつてネットワークづくりを進め、地域福祉・在宅福祉の花を見ようとおっしゃるとおり役員一同がんばっておりますので、この際ご注文やご期待ありましたら後ででも。予定時間をオーバーし、拙ない司会でごめいわくおかげしました。ひとまず閉会します。

山岸 原稿でお願いしては書けないような生の述懐をいただき、深く打たれました。ありがとうございました。(文責・山岸)



優良社会福祉協議会として全  
社協灘尾弘吉会長から表彰を受  
ける。

●昭和59年11月1日  
●東京 日比谷公会堂

略年表

・事務局職員数に家庭奉仕員をふくむ。( ) 内は家庭奉仕員数。  
・△は厚生省の指定事業を示す。

49	48	47	46	昭和45	年度
			相馬 <sup>6/1</sup> 大作	小山孫次郎	会長
		斎藤 富樫	勇藏 哲夫	伊藤珍太郎 本間武次郎	副会長
		斎藤 専一	五十嵐耕治		常務理事
				市川 勝	事務局長
五月	四月	三月	二月	一月	主な事業行事等
老人福祉センター建設（着工5・20 竣工12・20 広報活動 年二回会報発行 老人問題研究受託（特に老人医療費の研究調査・委員九名） 老人福祉センター施設利用開始、市川局長と木村・佐藤・鹿野四名で社協事務局発足	母子福祉センター建設準備委員会組織（一五名） 家庭奉仕員八名（うち老人・心身障害児者・身体障児者各一名） 学童保育研究・児童福祉対策研究・幼児教育研究受託	母子福祉センター建設（着工5・20 竣工12・20 広報活動 年二回会報発行 老人問題研究受託（特に老人医療費の研究調査・委員九名） 母子福祉センター建設準備委員会組織（一五名） 家庭奉仕員八名（うち老人・心身障害児者・身体障児者各一名） 学童保育研究・児童福祉対策研究・幼児教育研究受託	母子福祉センター建設（着工5・20 竣工12・20 広報活動 年二回会報発行 老人問題研究受託（特に老人医療費の研究調査・委員九名） 母子福祉センター建設準備委員会組織（一五名） 家庭奉仕員八名（うち老人・心身障害児者・身体障児者各一名） 学童保育研究・児童福祉対策研究・幼児教育研究受託	市社協設立準備理事会（法人化に向け定款・規則・役員、予算等審議） 家庭奉仕員藤井・柿崎採用（44・5 斎藤・小山・佐々木採用）委託 十五日社会福祉法人として法人格取得 法人設立式典	市社協設立準備理事会（法人化に向け定款・規則・役員、予算等審議） 家庭奉仕員藤井・柿崎採用（44・5 斎藤・小山・佐々木採用）委託 十五日社会福祉法人として法人格取得 法人設立式典
十月	九月	八月	七月	六月	事務員局数
母子福祉センター建設開始（着工10・3）・事業計画に地区社協育成が盛られる 高齢者無料職業相談開始（県社協から月一回）	母子福祉センター竣工（3・31）竣工式（49・8・6）	地区社協の育成を年度の重点目標にする。・学童保育事業、精神障害者自立更生事業委託	技能習得教室開講（編物・洋裁・和裁・着付・書道・華道・茶道・フラワー）	老人生きがい対策基金設置、施設運営委員会設置（一二名）	14(8) 14(8) 13(8) 12(7) 10(5)名
十一月	十月	九月	八月	七月	事務員局数
共同募金配分、東平田・鳥海・新堀保育園改築工事	酒田市社会福祉大会（11・22～23）	母子福祉センター建設開始（着工10・3）・事業計画に地区社協育成が盛られる 高齢者無料職業相談開始（県社協から月一回）	母子福祉センター竣工（3・31）竣工式（49・8・6）	地区社協の育成を年度の重点目標にする。・学童保育事業、精神障害者自立更生事業委託	33,985 22,561 17,156 9,986 5,427 千円
					一般合計額

55	54	53	52	51	50
			2/15 土田久太郎	6/5 佐藤 貞治	
佐藤 齊	53.5.12 加藤 俊夫 熊谷治三郎	佐藤 齊 小林 一郎	土田久太郎	土田久太郎	
児玉 悅一		菅原 文雄	菅原 良治	菅原 良治	
7/1 5/31 菅原 良治	1/1 12/31 菅原 良治	佐藤 弘	5/1 4/30 加藤多之吉		
四月 五月 六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月	市福祉事務所から高橋隆一氏が社協事務職員として出向、着任 市福祉事務所から高橋隆一氏が社協事務職員として出向、着任 老人福祉センター2F四室模様替え、母子福祉センター非常階段新設工事 中高年齢者職業相談事業県社協から毎月一回係員出向無料職業紹介 ・事務局次長三橋鶴吉氏(7・1) ・共同募金配分十坂・北平田保育園改築工事	四月 酒田大火罹災者援護事業 災害復興資金たすけあい金庫貸付業務受託 八月 罹災者相談事業開設 第二回福祉大会 ・心配ごと相談所開設(毎週水曜日、裁判所、法務局、母子相談員) ・重症心身障害者施設「いこいの家」建設資金募金 ・共同募金配分 上田・小鳩保育園改築工事	四月 児童福祉指導員(琢成・浜田学童保育・市委託事業)四名採用 ・特別養護老人ホーム「しおん荘」(湯野辺)建設資金募金	四月 入浴車運行事業受託(六か月以上寝たきり老人、身体障害春を対象として開始) 寝具乾燥機貸与事業受託 ・大火復興宣言 ・第三回福祉大会 ・共同募金配分、黒森保育園新築工事	四月 市福祉事務所から高橋隆一氏が社協事務職員として出向、着任 市福祉事務所から高橋隆一氏が社協事務職員として出向、着任 老人福祉センター2F四室模様替え、母子福祉センター非常階段新設工事 中高年齢者職業相談事業県社協から毎月一回係員出向無料職業紹介 ・事務局次長三橋鶴吉氏(7・1) ・共同募金配分十坂・北平田保育園改築工事
六月 七月 八月 九月 十月 十一月 十二月	事務局次長として須田徹氏(兼出納員)発令着任。事務局員伊藤千代吉氏着任。 福祉バス運行事業受託 ・老人団碁・将棋親善大会を始める(鶴岡市と酒田市と年一回会場交互に交流) ・共同募金配分、西荒瀬保育園・報恩会宿泊施設自きょう舎新築工事				
17 (10)	17 (10)	17 (8)	16 (8)	15 (8)	15 (8)
65,147	55,597	45,240	49,142	40,911	39,097

60	59	58	57	昭和56	年 度	
				佐藤 齊	会 長	
山岸 貞 <sup>6/21</sup>				加藤 俊夫 熊谷治三郎	副会長	
佐藤 典雄		3/31		児玉 悅一	常務事務理	
佐藤 啓治	10/1	9/30		本間 寿三	事務局長	
四月	市事務吏員小熊文彦氏が社協事務職員として出向、業務係長発令、着任	四月	〈老人のための明るいまちづくり推進事業〉(厚生省指定三か年、福祉事務所)		主 な 事 業 行 事 等	
七月	事務局次長として横山祐弥氏発令、着任(出納員兼務)					
	・第四回福祉大会(10・4)					
	・共同募金配分 宮野浦保育園新築工事					
四月	身体障害者福祉センター管理運営事業受託(58・4・15～平成元・9・30)	四月	身体障害者福祉センター開所	四月	身体障害者福祉センター管理運営事業受託(58・4・15～平成元・9・30)	事 務 局 数
五月	・シルバー人材センター設立	五月	・シルバー人材センター設立	五月	・シルバー人材センター設立	事 務 員
六月	ねたきり介護者技術講習会開催	六月	・介護者激励会を始める	六月	・介護者激励会を始める	合 計 額
七月	・第五回福祉大会(10・18)	七月	・老人福祉センター健康相談嘱記医の吉田金蔵氏辞任、酒井久氏就任	七月	・老人福祉センター健康相談嘱記医の吉田金蔵氏辞任、酒井久氏就任	決
八月	市内小学生による福祉帆製作体験学習、帆をもつて独居老人訪問(2・24母子センター)	八月		八月		
九月	優良福祉協議会として全社協会長表彰(11・1日比谷公会堂、灘尾会長から)	九月		九月		
十月	老人福祉センター付設作業所工事着工(12・1)竣工(3・31)	十月		十月		
十一月	・共同募金配分、特別養護老人ホーム芙蓉荘増築工事	十一月		十一月		
十二月	市単独事業「福祉のまちづくり推進事業」社協受託	十二月		十二月		
一月	六小学校区指定(琢成・若浜・港南・広野・新堀・浜中)	一月		一月		
二月	老人福祉センター付設作業所開所	二月		二月		
三月	第六回福祉大会	三月		三月		
四月	・共同募金配分 特老施設芙蓉荘増築、老人センター付設作業所新築	四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		
四月		四月		四月		
五月		五月		五月		
六月		六月		六月		
七月		七月		七月		
八月		八月		八月		
九月		九月		九月		
十月		十月		十月		
十一月		十一月		十一月		
一二月		一二月		一二月		
一月		一月		一月		
二月		二月		二月		
三月		三月		三月		

2	平成元	63	62	61	
		5／9 山岸 貞一			
	高橋重二郎	松浦 昭一	5／1 斎藤 知利		
	松本照太郎	高橋重二郎	小松 長敏		
阿部 太	3／31	尾形 正三	3／31		
三月	四月 十月 八月 五月 六月 七月 十月 三月	<p>四月 佐々木健治業務次長着任            十月 〈地域老人福祉システム開発育成事業〉（プラン80厚生省指定二か年）推進協議会長 佐藤宮太            八月 第八回福祉大会・福祉まつり（市総合文化センター・8・26）保育園児及びボランティア団体によるアトラクション・作品展示・チャリティー他            共募配分 小鳩保育園改築、光風学園通所施設とデイサービスセンター新築工事</p> <p>①福祉サービス供給開発部会 ②福祉施設総合整備計画検討部会            ③緊急通報システム開発部会を設置（実践協議会事務局 福祉事務所福祉課）</p> <p>四月 ふれあいホームサービスクラブ発足、クラブとボランティア協議会事務室を付設作業所に設置            福祉教育協力校、亀城小・平田中・中央高（市社協指定二か年）・高橋三吉事務次長着任            第八回福祉大会・福祉まつり（市総合文化センター・8・26）保育園児及びボランティア団体によるアトラクション・作品展示・チャリティー他            共募配分 小鳩保育園改築、光風学園通所施設とデイサービスセンター新築工事</p> <p>四月 デイ・サービスセンター竣工（3・26）竣工式（4・23）開所（4・24）            社協に四専門部会構成、合同部会をもつ（5・7理事会、評議員会後）            四部会事業計画検討            四部会 事業計画まとめ            ボランティアセンター竣工並社協法人化20周年記念式同時挙行、記念誌発行</p>	<p>四月 ボランティア事業 新規指定学区 松陵・泉・宮野浦・飛島・黒森・            十坂・東平田・北平田・上田・南遊佐（以上10か所）60・61年度継続12か所</p> <p>八月 第七回福祉大会（市民会館、8・26福祉協力校発表、ボランティア団体余興）            福祉教育協力校 宮野浦小・五中・中央高（市社協指定二か年）</p>	<p>十一月 厚生省指定ボランティア事業受託（61～62年度）推進協議会長 山岸貞一            学区指定琢成・若浜・港南・浜田・龟城・富士見・新堀・広野・浜中本楯・西荒瀬・中平田            四委員会設置            先進地視察・小松市・新発田市、事業計画策定急ぐ            共同募募金配分 浜中保育園改築 精薄更生施設光風学園新築工事            浜中保育園改築 精薄更生施設光風学園新築工事</p>	
31 (16)	22 (13)	21 (12)	22 (12)	22 (12)	
	172,051	116,066	105,736	74,706	

役員名簿

社会福祉法人酒田市社会福祉協議会  
山形県共同募金会酒田市支会

役員名簿

理事

(定款施行細則第9条に定める順)

氏名	現職	部会
山岸 貞一	自治会連合会副会長	
金野 耕伍	〃	共同募金
斎藤 知利	民児協連合会長	〃
佐藤一二也	〃 総務	企画財政
沼本 芳夫	衛生組合連合会会長	共同募金
高橋重二郎	地区医師会事務局長	企画財政
松本照太郎	市福祉事務所長	〃
杉山 勝美	老人クラブ連合会長	〃
佐藤 芳子	連合婦人会長	福祉活動
掘 正哉	身障者協会副会長	企画財政
池田 俊彦	酒田みなとライオンズクラブ理事	共同募金
杉山 実美	母子寡婦会長	福祉活動
小鷹 三郎	酒田ライオンズクラブ会長	教育広報
山野辺嘉一	地区労副議長	共同募金
土屋 照	同盟副議長	〃

監事

工藤 菊治	自治会連合会理事	
斎藤 平助	民児協連合会理事	

任期 平成3年5月31まで

平成二年九月十五日現在  
理事15名 監事2名 評議員35名 事務局職員31名

■ カット／母子福祉センター花壇の姫りんごの木

## 職 員 名 簿

平成2年7月1日現在

No.	役職名	氏名	採用年月日	部会
1	事務局長	阿部 太	2.4.1	企画財政
2	庶務次長	高橋 三吉	元.4.1	企画財政 教育広報
3	業務次長	佐々木健治	63.4.1	企画財政 福祉活動
4	事務職員	加藤 京子	40.8.15	企画財政 教育広報 共同募金
5	タ	槇 恭子	47.4.1	企画財政 教育広報 福祉活動
6	ケア推進員	久村 博	2.4.1	企画財政 福祉活動 共同募金
7	運転手兼用務員	阿曾 勇治	2.4.1	
8	ボイラー兼用務員	早藤 義量	2.4.1	
9	主任ヘルパー	久米井 重	48.1.10	企画財政 福祉活動 共同募金
10	ヘルパー	大野 鮎子	46.10.1	
11	タ	鹿野 三知	54.4.1	
12	タ	後藤 牧子	58.4.1	
13	タ	木下 清子	61.12.1	
14	タ	池田きよ子	61.12.1	
15	タ	大井扶美子	63.4.1	
16	タ	新井 荘子	63.6.1	
17	タ	田森 美津	63.6.1	
18	タ	本間 典子	元.4.6	
19	タ	上野 孝子	元.6.1	
20	タ	大川 京子	2.4.1	
21	タ	佐藤 初美	2.4.1	
22	タ	松浦 哲子	2.7.1	
23	タ	本間 弘子	2.7.1	
24	タ	斎藤 久治	2.4.1	

日直業務	土屋 正一	5.1~10.31
タ	菅原 晃吉	タ
タ	長橋 輝雄	タ

## 評議員名簿

任期 平成4年9月13日まで

(定款施行細則第10条に定める順)

氏名	選出区分	部会構成
伊藤 良助	住民自治組織	福祉活動
早坂 末吉	タ(自治会長)	教育広報
菅原 末弥	タ	企画財政
舟越 慎吉	タ	福祉活動
小林 方一	タ	共同募金
佐藤 悅雄	タ	福祉活動
高橋 敏郎	タ	教育広報
小野寺 均	タ	福祉活動
佐藤 吉雄	タ	企画財政
桧山 実	タ	福祉活動
後藤 正身	タ(部落会長)	タ
奥山 勘一	タ	共同募金
柿崎 秀一	タ	教育広報
池田 勇	タ	共同募金
阿部 武夫	民生児童委員	福祉活動
佐藤 功一	タ	共同募金
土岐千也重	タ	教育広報
伊藤 定雄	タ	共同募金
和田 廣	タ	教育広報
小渕 幸雄	タ	企画財政
佐藤 築作	タ	福祉活動
白幡 善太	タ	企画財政
山木 恒夫	タ	福祉活動
加藤勇治郎	老人クラブ連合会	タ
佐藤 作市	遺族会	共同募金
前田 健吉	保護司会	教育広報
前田とし江	連合婦人会	企画財政
富樫 孝助	身障福祉協会	福祉活動
杉山 綾子	日赤奉仕団	タ
渡部 堅吾	法人保育園協議会	教育広報
柿崎 邦	母子寡婦会	タ
伊勢 中三	青少年育成協議会	タ
藤丸 洋二	手をつなぐ親の会	福祉活動
三上 札子	交通遺児母親の会	共同募金
前田 博明	連合青年団	タ

## デイ・サービスセンターいづみ

1	所長	足達 智勇	2.4.1	企画財政 共同募金
2	看護婦	斎藤 幸	2.4.1	
3	調理員	堀 由美	2.4.1	
4	寮母	星川真由美	2.4.1	
5	タ	相馬 香	2.4.1	
6	タ	小松 充子	2.4.1	
7	運転手	栗田 明	2.4.1	

## ■あとがき

20年のあゆみを年代を追って4つのパートに分けるというだいたいの構想が固まり、寄稿をお願いしました。さっと期限まで集まったのには感謝しております。それを読ませていただいた後で、必要な図表や写真などをはめこむために、構成を再調整しました。この段階で残りの時間をふり返りました。私ひとりの編集では到底間にあいません。表紙、とびらその他のレイアウト・イラスト・割りつけに強力なボランティアの助っ人をお願いでき、ようやく窮地を脱しました。

ただ気になったのは表紙です。私の顔が出ていては……と拒みました。ですが、多くの写真は目線が下がり気味で採られないというのです。私と並んだ青年たちの21世紀の福祉を支える若さ、その躍動をシンボルにしたいのだと、このスナップを選んだ事務局のみなさんから説得されました。

史料性を保ちながら、視覚にも訴えて読み易くと欲ばるので紙数をオーバー、めいわくをかけました。また、諸先輩や現役のみなさんには誌上を通じて語り部になっていただいたし、資料の掘り起こしや図表化で、事務局にはずいぶんご苦労おかげしました。小松さんの印刷技術にもよりかっています。大方のご協力まことにありがとうございます。(山岸)

なお、本文中のそえ書き、前書き、中とびらのリードなどは、私の筆によるものであることを申しそえます。

## 20年のあゆみ

——社会福祉法人・酒田市社会福祉協議会

発行 平成2年12月3日  
企画編集 「20周年記念誌」編集委員会  
代表／山岸 貞一  
事務局長／阿部 太

発行所 社会福祉 酒田市社会福祉協議会  
法人 (酒田市母子福祉センター内)

〒998 酒田市相生町二丁目3-50  
TEL (0234)23-5765  
TELとFAX (0234)24-6299

印刷 小松写真印刷